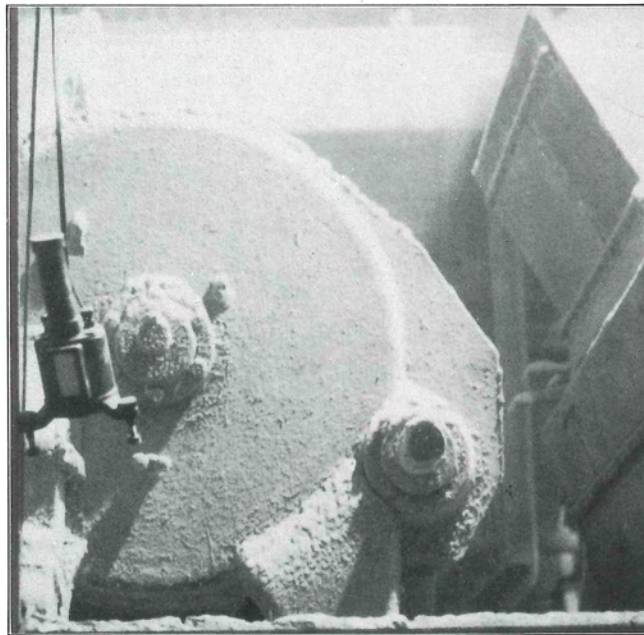


ARCHITECT

Japan Institute of Architects

1989 5 — MAY



C O N T E N T S

- 建築が人間の活力をひきだす 海部俊樹氏に聞く
- 現役時代と変わらぬ毎日 太田良男先生訪問
- 職業としての建築⑦ 瀬口 哲夫
建築家修業の型の確立 —18世紀後半以降—
- 「AMMNA T計画は失敗？」 林 英光

CONTENTS

目次

Essay	会員ずいひつ・木	後藤晃範(宣正)・倉橋光明・天野 浩	2
Interview	建築が人間の活力をひきだす		3
	海部俊樹氏(衆議院議員)に聞く		
Suggestion	都市への提言		
	都市景観にいま一步の配慮を	山口 守彦	9
History	職業としての建築⑦		
	建築家修業の型の確立 ー18世紀後半以降ー	瀬口 哲夫	6
Urban design	「AMMNA T計画は失敗？」	林 英光	12
	一構造家の独り言	森田富士男	16
	愛知県設備設計監理協会の事業内容		17
Predecessor	太田 良男先生訪問		
	現役時代と変わらぬ毎日		10
Woman	結婚して自由になった	竹内 温子	8
	「JIA保険(グループ保険)ご加入のおすすめ」		21
Art	織る・束ねる・結ぶ	片桐 映子	20
	彫刻のあるまちづくり	碧南市	18
News	賛助会員の製品紹介	井上エムテービー(株)・三井木材工業(株)	23
Book	新刊案内		11

建築歳時記

ブルーノ・タウト

1880年5月4日、ブルーノ・タウトは、バルト海に面した旧東プロシアの首都ケーニヒスベルクで、商人の長男として生まれた。

生地の建築専門学校を卒業後、1909年には、ベルリンに建築事務所を開設、鉄のモニュメント(1913)、ガラスの家(1914)などで、もっとも進歩的な建築家として世界的名声を獲得した。第1次世界大戦後は、建物の内外に諸色を用いた「色彩建築」を

始めて注目を集めたり、ジードルンク(集合住宅)建築に従事したりしたが、ナチス政権確立とともに亡命、1933年5月3日、シベリア経由で敦賀についた。

その翌日、53歳の誕生日を迎えたタウトは、彼を招待したインターナショナル建築会の上野伊三郎らのすすめで桂離宮を見学、その感激を次のように日記に書いている。

「純粹で赤裸々な建築。子どものように心打つ無邪気さだ。…関係の豊かさに圧倒されそう…多分わたしの生涯で最もすばらしい誕生日だ。」

1936年、招かれてトルコへ渡ったタウトは、そこで建築設計と講義に没頭するが、1938年のクリスマスに没。脳溢血だった。

会員ずいひつ

木

想い、思い、おもい

後藤晃範（宣正）

「ぬくもり」「香り」「木肌の美しさ」、他の材質とは違った、五感への刺激を造り出してくれるのが「木」である。

昨今、世の動きは、木に対する見直しとかで、積極的に住宅建築のみならず公共建築物にも利用され、10年以上前には想像もつかなかった勢いで専門誌などにも数多く発表されている。これは、日本の歴史からみても、風土上「木の文化国」であったという状況からみても当然であり、経済大国になった今日、物の見方に少しずつ変化があったように思われる。

鉄、セメントといった工業製品と、自然の中で育成された物とでは、違った素材の性質が、造り手、使い手側のゆとりから見直されていると感じられる。

造り手にとっては、「狂い」という、扱い方によっては、己の思うようにはできないという非常に難しい素材であるがゆえに、「木」という素材を使いこなしたときには、大きな喜びを感じるものである。

ちょうど、私が小学校4年生のときは、伊勢湾台風襲来、当時住んでいた所が、名古屋港区区内であったため、恐ろしい体験をしている。当然そのころの住宅は、木造が主流で、台風が来たときには、木建具の下枠からは水が吹き出し、雑布などをあてて侵入を防いだことや建具がはずれないように補強材で釘止めたのが想い出される。また、冬になれば、今日のアルミサッシとは違い、密閉率が低く、すき間風が入ってくるのに耐えながら四季を感じつつ育ったということは、私たちの財産であり、昨今の「木」というものを、経済の高度成長期のあふれんばかりの

工業製品化に対する反動からのブームだけに終わらせずに、造り手として、自然の大地に育った大切な我々の財産を再度「生かす」ようにしたいものだ。

（圓建築設計事務所主宰）

木 造 倉橋光明

私たちは、建物が持つ永遠に続く力のようなものを見逃してはならないと思う。地平線に消えてなくなる、水平の力。天空または地核に突き刺さる垂直の力。宇宙の彼方に去ってしまったかと思われた力が、再び矢のごとく一点をめざして集まる求心の力。

むかしの民家が法事のときなどに、建具を取っ払ったときの水平の拡がり。裸にされた柱の持つ精神的な垂直力。雨戸を立てたとき光と闇のもつ空間の物質化としての求心力。

木造建築の美しさは、構成そのものに美的効果を内在することにある。古い寺などに見られる斗拱など、深い軒を得るための構造上不可欠なもので、西洋のように装飾によって美的効果をあげるものとは異なる。架構の格闘によって生まれる原始の動き、強い意志の表現こそが木造の生命だ。

（輪建築設計・様房主宰）

触 感 天野 浩

日本の住宅産業の中で木材は、構造材としての木材と造作材としての木材と二面性を持っている。しかし森林伐採による自然破壊などの今日の危機的状況は、日本の木材の大量消費にいずれ制約を加えることになるだろう。そして我々設計する立場の者も木材をどう位置づけするか、選択を迫られることにな

ると思う。今、私の中で木材は、構造材としてよりも仕上材の木として位置づけられている。それは木が触感を伝える数少ない素材だからである。数寄屋建築にみられるような視覚的な多様性もちろんあるが、もっと日常的で日本特有文化の担い手である触覚に、木のはたす役割は大きい。特に現在建築仕上材として多用されている工業製品の多くが、視覚的多様性に比べ触感が一様であるのは、工業製品であるがゆえの宿命ともいえるからだ。

金属は金属でしかなく、樹脂は樹脂でしかない。

木の触感とは木肌であるが、木目や節など多彩な変化は視覚的なものであると同時に触覚との相乗効果を生んでいる。

浮造りのそれは他の材料にない存在感を示し、人々に温もりやノスタルジーを感じさせるし、^{かた}匏で仕上げられた柀目の滑らかさは心地よくエロティックでさえある。また素足で歩く板畳の感触や、節だらけの板壁にさえ感じられる安息感、他の材料から得ることはできない。

早晩日本の住宅産業も様変わりし、構造的には鉄骨系の量産住宅が大きなシェアを占めるようになるであろうし、仕上材にしても工業製品で代替できるものは今後さらに木にとって変わっていくであろう。

だからこそ、われわれは木の素材を大切にしなければいけない。触感の様な木の模造や木目のプリント材などの安易な使用は避けるべきであり、私自身肝に銘じておきたい。

それはある意味では、すべて木で覆われた木造校舎で学んだ最後の世代のわれわれにとって、木の感触を後世に伝える責務があるように思われるからである。

（樹共同設計主宰）



建築が人間の活力 をひきだす

リクルートで荒れる渦中でのインタビューだった。多忙な時間を割いてARCHITECTの申し入れにこたえてくれた。約束の時間をオーバーしても海部代議士は真摯に耳を傾けてくれた。

1%芸術予算が実現したのは、この海部代議士が文部大臣の時の英断によるものであった。

衆議院議員

海部俊樹氏に聞く

インタビュアー 鋤納忠治

●新しい発想と新しいデザイン

—わたしどもは一昨年、丹下健三さんを会長に建築家の職能の確立をめざして新日本建築家協会を設立いたしました。西欧では古くから建築家は医師と弁護士と並んで三大プロフェッションと言われていますが、建築家の地位は残念ながらわが国で低いわけです。

海部 いま、建築家といわれる人は全国で何人くらいいるのですか。

—建築の仕事に携わる人は建築士試験をうけて一級建築士、二級建築士の資格をとるのですが、一級建築士は全国で約212,000人もいます。しかし、わたしどもは建築家という場合、その中から、建築事務所と建設業に所属するいわゆる兼業の建築士とを分けて建築設計を専業としている人を対象として考えています。

海部 ぼくらの仲間にも建築家になった人もたくさんいます。高校の時の同級生では、あなたの事務所の伊藤節郎さんもそうですし、黒川紀章さんも後輩でいます。それから早稲田の先輩で圓堂政嘉さんという人がおり、早稲田大学をこぎ建てたら非常に立派になるぞと情熱的に語られたので総長をつれて来て話を聞いたこともあります。

—圓堂さんは、新日本建築家協会の前身の日本建築家協会の会長をつとめられたこともあり、とりわけ建築家の職能の確立については熱心な方でした。

海部 日本の建築は木と紙でつくられており、神社、仏閣は別にして日本の建築には比較的小さいものが多かったですね。ところが、明治以来、洋風建築がとりいれられ大きな建築が出てきました。はじめは物真似であったり折衷様式であったものが、最近では新しい日本独自のものもできるようになってきました。私の二度にわたる文部大臣、二度にわたる内閣官房副長官という行政の経験でいきますと、丹下健三先生にもその間二、三度にわたってお話を聞いたことがあります。たとえば大学の移転についても文部省の管轄が移転計画をきめてやればよいというものではなく、そこには新しい発想ときちんとした計画と新しいデザインが必要だということを聞きました。

国立劇場の問題でも、日本の建築のすすめ方は、設計料率の問題から公募の方法について日本しか通用しないものである、もっと国際化にこたえて世界に通用するものでなければならぬ、ということをいろんな機会を通じてお聞きしました。

だから私はそれぞれの分野が、われわれの分野のことはわれわれにまかせてほしい、そ

の代わりしっかり責任をもってやりますよ、ということになれば、日本の文化の発展の上でも大いに意義があることだと考えています。とくに建築家の分野は創造の世界のことですから、そういう人が目標をもって仕事をなさることは大切なことではないでしょうか。

●専門家の意見を幅広く聞く

—ところがそのわりに、現実では建築は大事にされていないわけです。市町村では、建築家を選ぶのに入札がおこなわれているのをご存知でしょうか。

海部 私の郷里の市役所の場合は複数の人が図面を出して、市役所の中で設計審査会をつくって、審査しているように聞いていますけれどね。

—大きな建築や記念的な建築の場合はそうですが、通常は金額で決める入札でもって決めています。

海部 そうするとみなさんが主張されることは、入札ではなくてすべてのものをコンペでやれということですか。

—すべてをコンペでなくても、いわゆる特命発注でいいわけです。ともあれ、入札だけは困る。入札というのは金額の競争ですので、これだけは避けたいと願っています。

海部 競争の原理でね。いろいろなアイデア

がみなさんにはあるだろうから、いろんなアイデアを出してもらって、それをいろんな角度から検討し目的にかなったもっともふさわしいものをつくる。ぼくが理解していることはそういうことです。そうではなくて、建築設計は一社特命にするということですか。しかし、それをやっはいかん、もっと公平な参加を得なければいかんというのが世論です。マスコミなんかは談合があったとか、予めどこどこで決まりそうだと非常にきびしい。

—アイデアの競争ではなくて、金銭の多寡の競争になっている、そこに不満があるわけですか。

海部 設計料は予算の何%と決まっているのではないですか。今年なんかオリンピック青少年センターをつくるということで大蔵省が設計料をどうするかというとき、ぼくらはそれは出してあげなさい、と予算折衝の時やりましてね。それで大蔵省に話がつきますと、文部省は工事費の何%を設計料として、今度は広く希望者を募集して設計者を決めます。オリンピック青少年センター、国連大学などいろいろ計画していますが、世の批判をうけないように専門家の意見を幅広く聞き協力を得てやっていますよ。

特命方式はいままで批判があり汚職の温床だったのではないですか。そこで建物によって一級建築士が何人以上の事務所という規準をつくって発注するわけです。

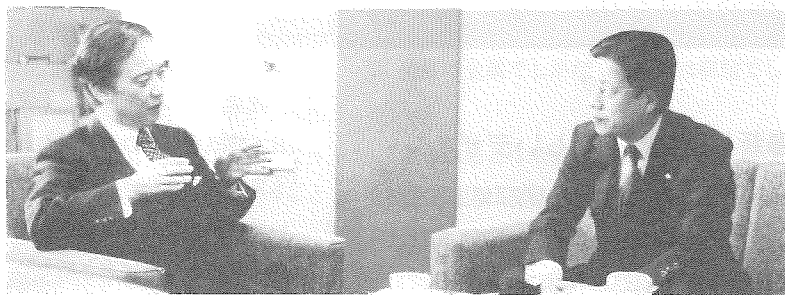
—東京都の場合、プロポーザル方式といって候補者を何人か選んで面接して、提出された計画を審査会で審査して決める方法をとっています。これはわれわれ設計界でも評価をしています。

海部 公共事業というものは予算で決まっていますからね。公民館にしても青少年ホーム、学校建築、給食センターにしても補助率は当たり前くらいというふうになっています。木を使う場合は補助率を10%アップしますという特例をつけていますが、この補助金に地方自治体が自己負担分を上乗せしておやりになるわけですから、どのような方法でおやりになるか、これは自治体にお任せしています。だいたい市町村でやる仕事は決

まっています、市庁舎とか中央公民館をつくる場合は、コンペでやっていると理解しているのですが……。

—お役所の場合は、設計は設計事務所というようになっており、専門の設計事務所に発注されることになっていますが、法律では一級建築士事務所は、建設業の一級建築士事務所も専門の一級建築士事務所も同じ取扱になっているわけです。つまり専門の設計事務所は身分として国で認められていないわけです。

海部 そうですか。日本では認めていないのですか。国は大きな工事の設計は設計事務所だと認めてやっていますでしょう。



衆議院第二議員会館にて 左 海部俊樹代議士、右 鋤納忠治

●建築は文化を残していくもの

—官庁はそうですね。しかし、設計の入札ということは、建設業と同じ取り扱いです。

海部 ぼくらは出発点となる大きな話には関わりますが、具体的にこれはどこにやらせろというようなところまで政治家が介入することはよくない。したがってみなさんに知恵を出してもらって各界の人にどういふ姿、形の建物がいいか選んでもらうのがあるべき姿だと思っているのですが。

—先生の立場はそうですね、金銭の競争によって建築家を決めるべきでないということも制度として認めてもらうことはできないかとわたしどもは考えているのです。

海部 いい機会だから教えてもらいましょう。ぼくのところにいた秘書も一生懸命勉強して一級建築士が受かりましたといっただけですが、一級建築士の制度ではいかなのですか。—欧米の話で恐縮ですが、ゼネコンや役所の一級建築士は建築家とはいいません。

海部 設計は設計だけの一級建築士というのをつくって医者や弁護士のように登録せよということですか。

—そういうことです。大正の頃から、そういう制度をつくるというのが建築家の悲願であったわけですか。

海部 大正の頃から、そんな運動があったのですか。つまり一級建築士でもつくる方の工事に所属する人は、設計については次元が違うので設計は設計で別のところでやらせた方がよろしい、こういうことですね。

—そうです。最近では税金対策上、どこも株式会社となっていますが、タテマエでは設計事務所は利益の追求を目的としないとい

うことになっています。なかなか難しいところですが、したがって設計事務所は、医療法人や学校法人と同じように公益法人にしてほしいというのが建築家職能法のねらいであるわけですか。

海部 生活さえ保障されれば、あとはいいものをつくることに専念できるということなんです。

—そのへんはなかなか難しいとは思いますが。

海部 建築は日本独自の文化を残していくものだから、商売人ではなく、いいものができるように処遇についても講じようということも筋の通った主張だと思います。国と民間と両方あるから民間も右へならえということになるとは思います、それは一定の規模以上ということでしょうね。

—おしなべて建築は経済行為と考えられていて関心は薄いということがあると思いますが、いかがでしょう。

海部 人生、家を建てることは生涯通して一

回あるかどうかでしょう。ぼくなんかおじいちゃんの関係で一回あったわけですが、普通は建築家の世話になる機会はなかなかありません。マンションに住む人などはできたところに住んでいるわけですからね。

●公共建築の1%の芸術予算

—民間の場合は工場をつくって儲けよう、オフィスビルをつくって儲けようという経済行為ではじまる場合は多いですが、官庁の場合は文化を意識したものでなければいけないと思います。

海部 ぼくにはぼくのロマンがありましてね。10年前、最初の文部大臣のとき、公共建築の場合は総予算の1%を絵画、彫刻などの芸術作品につけようということで実施しました。それから二度目の文部大臣のときは、4年前のことですが、鉄筋でもいいから学校は内貼りは木材を使ってくれんかと提案しましてね。勉強する場合は冷え冷えとしたコンクリートだけではなくて内貼りに木材を使ってくれれば補助金を10%多くするというにしました。また、従来の校舎と違うパターンの校舎をつくったところでは、たとえば給食のときに集まる大きいホールは、多目的ホールとして何か知恵を出して利用できないかというような話をしたこともあります。

その立場立場でプロの人が責任をもってモノをつくってもらうことが大切だと思います。とくに建築は残るものだからね。ぼくは、建築設計についても近代的な運営がされてきたものと思っていたのですが、お話を聞いてみると、いろいろなぼやけたところがあり、接点が明らかでないところがあるようです。もっときちっと整理して明確にする必要があるようです。仕事に責任を持つ、仕事に誇りを持つという二つの面からいっても大事なことでしょね。

—最近では民間でも設計にお金をかけるところが増えてきました。

海部 いまでも財政上、きびしい、きびしいといわれていますが、とくにオリンピック青少年センターなどは海外の青年を集めて帰すところですから、快適な環境をつくるとも

に、日本的なものも身につけてもらいたいという希望がありますから、設計料はちゃんと要求して設計どおりにやろうということになっています。官庁の上層部はだんだんそういうことに気がつき始めています。とくに文部省、文化庁はそうです。

—建築を文化としてとらえる考え方は、だんだん浸透してきましたが、そういう考え方が制度としては定着していません。だから入札になってしまう。

●法律の罅外においてほしい

海部 本当に文化をつくる自由な職業で芸術家の立場で考えていくなれば、わたしはあまり規制なんかでしぼられない方がいいと思ってしまうわけですか。わたしは早稲田ですから、大隈重信の在野の精神で、官僚に指図されたり規則でしぼられたりするところからは良いものは生まれてこない、自由なところで活力は生まれてくるという教育をうけてきたものですから、何々法とか何々規則で役所がしばるのはいけません、創造の分野はなるべく規制しないでまかせておいた方がいい、そういう発想で物事を考える癖があるから建築家の問題もそのように理解していました。

—それはそうですね。しかし、建築設計界と建設業界とがいっしょに扱われているのはやはりまずいと思います。その交通整理を政治家の先生にお願いしたいというわけですか。

海部 そこで建築家という言葉がわれわれシロウトにはまぎらわくなるわけです。一級建築士という国家試験があって、それに受かることを目的に学生は一生懸命勉強している。だから、わたしどもは医師や弁護士の試験と同じように建築士試験を考えているわけですよ。だから、建築家といわれるとわからなくなる。建築家というと一般の人はモノを建てる人と思っていますよ。

—それは建設業ですね。

海部 それはあなたたちの到達度であってわれわれの知識の到達度は建築も建設もいっしょですよ。だから建築家職能法といわれるより設計家職能法といわれた方がピンと来る。

設計家の方がそのものズバリでわかりやすい。問題はわかりやすくなければいけないと思いますよ。

—英語ではアーキテクトとコンストラクターとはっきり違うのですが、日本では建築家の歴史は浅く、まだなじみにくいという点があります。それに建築家職能の問題は国会レベルでは小さい低次元の問題ということもあるかと思いますが。

海部 次元が高い低いの問題ではなく、われわれはよくわからないのですよ。社会的批判をうけてはいけませんから、政治家は専門的な個々のことでくばしを入れたいとは思いません。立派なものをつくれ、国連大学をつくれ、文化会館をつくれ、そのために予算をとれということはしっかりやりますよ。だから、知らずともしなかった。現状で建築家のみなさんも喜んでみえると思っていた。宿題として考えてみますよ。

●建築は人間の活力をひき出す

—最後に建築の設計とデザインについてどのような希望をもってみえるかお聞かせ頂きたいと思います。

海部 最近では驚くことばかりで、この間も名古屋商科大学の建物ができたといいました。なるほど学生の勉強する環境として立派なもので、建物の中に入ると広々としたスペースで隣の部屋にはコンピューターの端末がいっぱい入っている。ぼくらの学生時代にくらべたら、こんなぜいたくなと思うような建物です。インテリジェントスクールのモデルだから、ぜひ見てくれと言われて見ました。建築は雰囲気をかえることによって人間にやる気を起こしたり、気分を休ませたりする。建築はハードばかりでなく、ソフトの面、人間的な面についてもぜひぶん影響を与えるものだなと感じました。ニューヨークの五番街に行ったときも、日本が買収して有名になったティファニービルの隣に同じようにインテリジェントビルがあって、ご承知だと思いますが、木が植えてあって水が流れている。われわれ日本人の眼からみるともったいないな、ここに部屋をつくったら幾部屋

できるだろうと思ってしまう。そうではなくてすぐ近くに大きな公園がありながらビルの中に緑をつくる。ビルを訪れた人がほっとした救いを感じる。ただ単に建物をつくるというのではなく、人間の心にいろんな影響を与えているわけですね。建物が人間の活力をひっぱりだしたり、リフレッシュする。あるいは新しいイメージーションをひき出す。建築も変わったものだと刺激をうけながら見てきました。

フランスにもファビウスという文部大臣がおり、親しい間柄ですが、フランスへ行くとポンピドゥーセンターに案内されます。いままでの美術館、博物館の概念を破った建築ですが、人がここに集まり、それなりのことを感じて出てくる。また、われわれみたいに奇想天外な建物だと驚くところにも意義があると思います。パリの飛行場では乗り場から乗り場まで移動する円形の中に通路みたいなものがありますが、ポンピドゥーセンターの展示の中にも同じものがあります。そうした建物が人間を刺激し、影響を与えたりして新しい文化が出てくるのだと思いますね。ただ単に姿形があって残るというだけでなく、生きていく人間の生きざまの中に建物というものは変わっていくのでしょうか。関西空港もいろいろ話題になっていますが、そういう意味でいうと中部国際空港にも大きな夢が期待できると思います。

(2月16日 衆議院第二議員会館にて収録)

海部俊樹(かいふ・としき) 略歴

昭和6年1月 愛知県に生まれる
 昭和29年3月 早稲田大学法学部卒業
 昭和35年11月 衆議院議員に初当選、以後10回連続当選
 昭和41年8月 労働政務次官
 昭和47年12月 衆議院議院運営委員長
 昭和49年11月 自由民主党副幹事長
 昭和49年12月 内閣官房副長官(三木内閣)
 昭和51年9月 自由民主党国会対策委員長
 昭和51年12月 文部大臣(福田内閣)
 昭和53年12月 自由民主党副幹事長
 昭和55年8月 自由民主党文教制度調査会長、現在に至る
 昭和59年11月 自由民主党筆頭副幹事長
 昭和60年12月 文部大臣(中曽根内閣)

職業としての建築⑦

建築家修業の型の確立

——18世紀後半以降——

瀬口 哲夫

豊橋技術科学大学助教授

1. 18世紀後半から、はえぬき建築家が増加。建築家の出身がいろいろであっても、彼らが自分の地位、さらには後進について思いをはせた時、自分たちの組織そして建築家を養成する教育機関の必要性を感じたであろうことは想像にかたくない。

17世紀から18世紀にかけての一流の建築家は、その出身により5つのグループに分けられた。しかし、18世紀後半ともなると徐々にではあるが、有名建築家のもとで働き、そこで修業するという形が定着してくるようである。建築を学ぶ時、徒弟制度ということが今でも言われることがあるが、18世紀後半以後のことなのである。フランク・ジェンキンスによると、1750年から1834年にかけて仕事をした一流の建築家17名のうち、はえぬき建築家は11名にのぼる。(注)前の時代の建築家は必ずしもはえぬきの人が多かったわけではない。時代がたつにつれ変化してきていることがわかる。

ジョージ・ダンス・ヤンガー(1741~1825)はローマで建築家のもとで学んでおり、このジョージ・ダンスのロンドン事務所が弟子入りしたのが、ジョン・ソーン(1753~1837)である。さらに彼はヘンリー・ホランドの事務所で働いている。ロバート・スマーク(1781~1867)はジョン・ソーンの手帳に弟子入りしている。英国では、厳密な意味での年季契約の門弟制度をはじめたのは、ロ

バート・テラー(1714~1788)と言われている。このテラーのもとで修業したのがジョン・ナッシュ(1752~1835)である。

このようにして、建築家たらんと欲する人は有名な建築家のもとに集まった。こうした傾向は、一方で建築家として活躍している側にも、後進を育てようという気持ちがあったことを示している。

2. 5年間の弟子入り一般化

徒弟制度という言葉を辞書でひいてみると、「ヨーロッパ中世のギルド(=同業者組合)で、弟子が親方のところに住み込んで技術を修得した制度。日本の年季奉公(=やとわれ)の年限を決めてする奉公)もこの類。」とある。18世紀後半の英国で建築の修業のため、建築家のところに年季契約して弟子入りすることが定着してくるが、これは必ずしも中世のギルド制のもとでの徒弟制度と同じではない。門弟制度の場合、3年とか5年とか年限を定めて弟子入りをするが、契約して弟子入りにあたっては謝礼額も定め、これを弟子が師匠に支払う。こうして既成の設計事務所が建築家養成にあたっては重要な役割をはたすようになる。こうしたところでの教育としては、もちろん体系だった講義などというものがあるわけではなく、むしろ、オーダーの製図をしたり、建物の実測をしたり、またある時は実際の仕事の図面を作成したりしたよう

である。

年季の期間は別に一定していたわけではないようだが、徐々に5年が多くなる。時代は19世紀になるが、1831年設立の建築協会への入会資格は、建築家の事務所で5年間、建築を修業した者であったという。これは5年間という修業期間が建築家になるためには必要ということであろうが、実態もこれに近かったということが想像される。

ちなみに現在、大学での建築教育も5年間(アンダーグラジュエートが3年間=パート1に対応。グラジュエートが2年間=パート2に対応。)であるとされているのも、18世紀のこうした経験をふまえたものであろう。

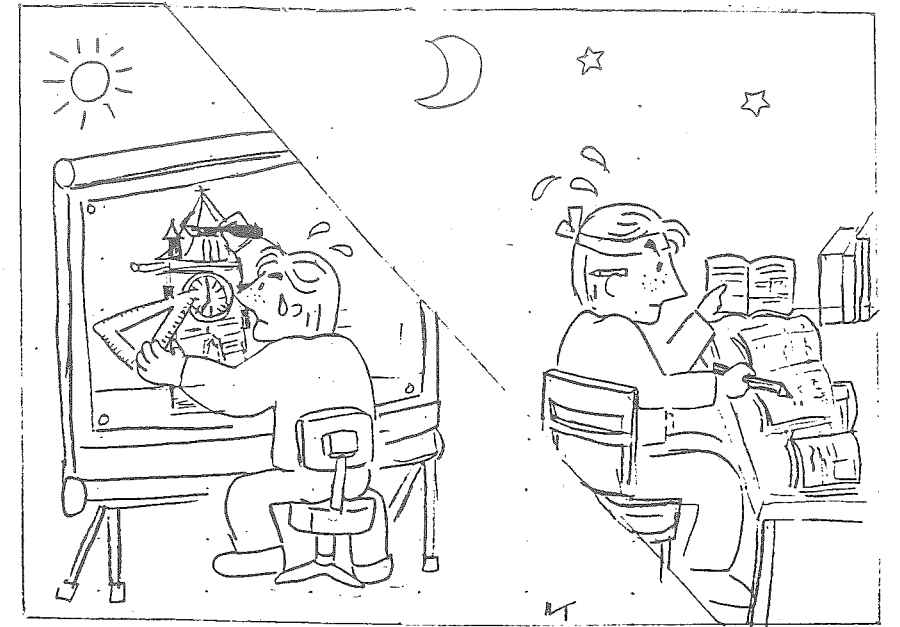
3. 補完的役割の製図学校

既成の建築家のもとに弟子入りすることは建築家になるためには重要であるが、それだけでは必ずしも十分でない。建築家のもとで実務的なことを修得するとしても、製図の基礎的なことなどは別のところで習う必要があった。

製図そのものはむしろ職人的なところがある。この種の製図学校の設立は1720年頃までさかのぼることができそうである。1720年には、セント・マーチンズ・レイン・アカデミーという製図学校が開校されている。製図学校は製図だけではなく、意匠も教えていたようである。製図だけについてみると、これは必ずしも建築固有のものではないので、他の職業の人にも含まれていた。かくて昼間は建築設計事務所において修業し、夜間は製図学校に通うという建築家の卵たちが増えてきた。製図学校は門弟制の補完的役割をはたした。

4. ロイヤル・アカデミーで始まる初めての公式建築教育

1768年にはロイヤル・アカデミー・オブ・アーツ(英国芸術院)が設立されているが、このロイヤル・アカデミーを王に提言し、実現に導いたのは建築家ウィリアム・チェンバース(1723~1796)であった。彼がパリのブロンデルのもとで修業していた時、プリン



18世紀後半の建築家の修業(昼は設計事務所にて徒弟。夜は夜学で勉強)

ス・オブ・ウェールズ(後のジョージ3世)に会い、彼の知遇を得た。英国に帰国し、プリンス・オブ・ウェールズの母親であるプリンセス・オーガスタに気に入られ、彼女のためにキュー・ガーデンの設計をした。チェンバースのこうしたロイヤル・ファミリーとの関係がロイヤル・アカデミー実現に大いに力があったことは疑いがない。彼はロイヤル・アカデミーで大きな影響力を持った。

ロイヤル・アカデミーでは、創立の翌年の1769年にアカデミー・スクールをはじめている。これが英国でも公式の建築教育の始めとされる。アカデミー・スクールでは年6回の講義を開いた。初代建築教授はチェンバース、2代目はジョージ・ダンス・ヤンガー、1806年からは3代目としてジョン・ソーンが跡をついでいる。スクールの3代目教授を務めたジョン・ソーンは先きのべたようにジョージ・ダンスの事務所でも昼間修業する一方で、ロイヤル・アカデミー・スクールに通っている。

5. 建築修業の型ができてくる

若い人が建築の道に進む場合、それなりに動機があるにちがいないが、先達としては賞

を出し、励みを与えたい。ロイヤル・アカデミー・スクールではゴールド・メダルを設けた。この賞はアカデミー・スクールの学生に対し競技設計を課し、その中で最優秀作品に与えられるものである。ロイヤル・アカデミー・スクールの第3代教授になったジョン・ソーンも1776年にこのスクールのゴールドメダルを受賞している。

こうして18世紀の後半までに建築家になるための修業の型ができあがってきた。建築家のもとでの5年間の年季契約にしたがっての修業。一方で製図学校やロイヤル・アカデミー・スクールへの通学。そして経済が許せば建築の教養をつけるために一定期間海外へ出かける。

ただ海外への留学は17世紀半ばまでほど重要ではなくなってきた。むしろ建築家として海外に留学して教養を深めることが求められた。

(注) フランク・ジェンキンス著 佐藤彰他訳「建築家とパトロン」

のもあり、調整の難しさを感じています。
⑤ それぞれのまちには固有の歴史、文化、自然が息づき、そのまちの個性となって、独特の景観をつくりあげています。条例では、こうした歴史的建造物など都市景観上重要な価値があると認められるものを、都市景観重要建築物などに指定し保全する制度があります。

指定の際には所有者などの権利者同意を前提としています。現在、本市においては、都市景観審議会の意見を聴き、第1回目の指定のための同意要請に入ったところです。この同意要請については、公共の建築物などでも、指定後の維持管理、改修などに際しての手続きの煩雑性なども考慮されて、了承を得るまでに時間がかかります。また、民間の建築物などになりますと、指定に伴うPR効果は期待できるにしても、保全にともなう利用制限、改修費の負担増など経済効果も考慮されて、了承を得るにはさらに時間がかかりそうです。

現在のところ、本市においては若干の助成制度がありますが、今後は必要限の最小保全範囲の設定や、保全にともなう見返りボーナス（例えば容積率のアップ）なども検討していく必要があると思われます。

⑥ 本市では、条例により、毎年、すぐれた都市景観の形成に寄与している建築物などを表彰しています。この制度は昭和57年、都市美観優秀建築賞として発足し、昭和59年から条例の制定にともない、現在の都市景観賞となったものです。

歴史の浅いわりには、優秀な選考委員に恵まれ、マスコミの全面的なバックアップにより権威ある賞として定着し、設計者などの受賞希望も大変強いものであると聞いています。表彰時の後の懇談会の発言の中にもそれが表われています。

ただ、これほどの賞のわりには応募件数が今一步少ない気がいたします。市のPR不足もあり、努力していますが、ご一読の皆様方も積極的にご応募いただいたり、仲間の方々をおさそいいただければ幸いです。

工夫、ちょっとした配慮を要望したくなる事項があります。ここでは、思いつくまま、数点にわたって事例紹介をさせていただきます。

① 条例では、市の関係機関は景観配慮に先導的役割をはたすことになっています。現在、デザイン博関連の諸施設整備、ライトアップなどについては先導的役割をはたしているように見受けられますが、予算のしぼりのかかる事業関連施設の中には、ちょっとした工夫、ほんの少しの予算の上積みができず、あたら先導的役割を放棄しているようなものも見受けられ、非常に残念に思われます。

② 都市景観整備地区内（現在は久屋大通地区と名古屋駅地区の2地区）で建築行為などを行う場合、敷地が狭いときは、なるべく量感を出すためにも、共同化あるいは隣接建築物とのデザイン、色彩などの調和をお願いします。しかし、現実には現在まで地区内で共同化された建築物はなく、色彩の同色系ぐらいに落ちついています。

③ 条例では、市内において高さが31mを超えるような建築物などは、これが地域の景観形成に大きな影響を与えるところから、建築者に事前届出をお願いします。

先般、12階建マンション建設の届出がなされ、その屋上に給排水、空調などの建築設備をむき出しにしている事例がありました。ルーバーでおおわないのは、北面する30m道路の北側の方々日照上の関係（ほとんど実質日照の影響はない）から反対したからだそうです。市としては、この件では、実質日照の関係からも景観上ルーバーをつけてほしい旨お願いし、現在地元で話し合いが進んでいるところです。

④ 広告物についても、高さが10mを超えるようなものについて事前届出をお願いします。この広告物については景観への配慮の行き届いたもの、あるいは目立てばよいとするもの相半ばするところです。

良い事例としては建物などの新築の段階で一体処理がなされているもの、あるいは、ビル管理者が突出広告の色彩、形態などを定め、守らせ、統一美を出しているものもあります。一方で、色彩の修正、反転などをお願いするなかで、C. I. との関係にふれてくるも

名古屋市計画局都市景観室長
山口守彦

都市景観に いま一步の配慮を

最近、名古屋のまちは変わった、きれいになった、という声を聞くようになりました。これには二つの理由があると思われます。

一つは、名古屋市が今年、市制100周年を迎え、世界デザイン博覧会を開催するため、その前にできるだけまちをきれいにして、国内外からの多くの来訪者に好印象をもってもらおうと懸命に努力していることがあげられます。

もう一つは、より根本的なもので、名古屋市では約10年前から、いわゆる人間性を尊重した「ゆとりと潤いのあるまちづくり」の重要な施策の一つとして「調和のとれた魅力ある都市景観の創造」を掲げ、都市景観行政を積極的に展開してまいりました。

昭和59年3月、都市景観条例を制定し、昭和62年3月には名古屋市都市景観基本計画を策定し、さらに、これらの考え方は昭和63年8月策定の名古屋市新基本計画の中に盛り込まれ、具体的に、(1)地域特性を生かした優れた都市景観の形成 (2)まちのデザイン向上 (3)市民の手による優れた都市景観の形成 をめざしています。こうした目標達成のため、市、市民および事業者の三者が三位一体となって、名古屋のまちづくりに取り組んでいる成果のあらわれであると思われます。

しかし、景観行政の実務を通してみる中で、今後の課題といえますか、「もう一步、景観に配慮がなされたら」といったちょっとした



竹内温子

名古屋建築局指導部指導課技師

結婚して自由になった

1963年江南市生まれの26歳。すらりと背が高く、第一印象は品のよい「お嬢さん」。だが、話を聞くうちに、実はとても芯のしっかりした人だということがわかってくる。

静かな語り口の中にも、はっきりと自分の意見をいうことのできる人だ。

竹内さんが建築科志望を決めたのは、高校2年生のとき。理系科目が得意だったし、研究室にこもって学問に打ち込むよりは外に出て仕事をしたいという希望があったからだ。

名古屋大学工学部建築科に進み、柳沢忠教授のゼミで学んだ。卒論のテーマは、小学校の教育機器に着目して校舎の平面計画を考える、というもの。アンケートをとったり、いくつかの小学校を訪問して調査したりした。同じ学年で柳沢教授のゼミにいたのは、結局あと1人の男子学生だけだった。彼女は彼と結婚することになる。仲人はもちろん柳沢教授夫妻だった。

「結婚してからの方が自由になったわ。」と、彼女はすらりといってのけた。「江南の両親の家には、通勤距離が長かったし、遅くなれば心配されたし……。その点、今は名古屋市内に住んでいるし、相手の帰日も遅いから気が楽なの。」ご主人は建築とはまったく関係のない仕事についているが、彼女の仕事には深い理解を示してくれている。相手がよかったとはいえ、最低限やらなければならない家事というのはあるわけで、やはり家庭と仕事の両立は大変ではないのかと聞くと、「家庭の方は捨ててますから。」と、またびっくりするような答え。「生活に困らない最低限の洗濯や炊事なんかは、もちろんやりますよ。でも、そんなに大変なことはしてないの。子どもができればまた違ってくると思うけれど。」働く女性について語る時、必ず話題となる家庭と仕事の両立の問題も、彼女にとっては、いともたやすいことのようにだ。

卒業後すぐに入った市役所での仕事についても「男女の差なんてないと思う。ある

あったけれど、女だからというより、新米で未熟だったからだと思う。」という。今年の四月からは、指導部指導課に配置転換になり、仕事の内容がガラッと変わった。今やっていることは、主に市民から寄せられる、建築法規に関する苦情と相談の受付だ。市民からの声は、身近な日常生活に根差したものが多く。マンションができてから違法駐車が多くなった、隣の工事の騒音がひどい、その他電波障害や日照権の問題など。これらの声に、その都度きちんと答えて行かなければならない。まだまだとまどうことが多いが、少しでも早く仕事を覚えたいという意気込みは人一番のようだ。

女性は、男性に比べ自分本位で、自分の周囲の狭い世界しか見ていない、大局観がないとはよくいわれることだが、彼女はそうした意見にも否定的だ。何よりも嫌なのは、視野の狭い人間になってしまうこと。公務員というのは、ともすると与えられたのは個人差だけ。」と、きっぱり言い切る。最初の4年間は営繕課にいた。監理のため現場にも詰めた。そのときも「大変では仕事だけこなしていけばよい、という受け

身の姿勢になりがちだ。そうなりたくないから、なるべくいろいろなところに顔を出し、いろいろな人と知り合うようにしている。「外にもどンドン出て行きたいの。」と積極的だ。

将来何かやってみたいことは、との問いに対しては「行政という立場にいと、まちづくりに興味があわくんです。建築物というのは、ひとつ一つバラバラに考えてはいけなと思います。都市景観全体を考慮に入れて、全体的にもっとデザインの質をレベルアップする必要があると思うんです。今やっている仕事とは全然違うけれど、いつかこういうことができれば。」と、熱っぽく語ってくれた。

現在の公共建築物の中には、面白味のないデザインで画一化されているとか、使う側の立場を無視した設計になっているといった批判を受けているものがある。彼女は、トータルなまちづくりの視点から、そのあたりを改善したいと考えているようだ。

若く、意欲的な彼女、いつか質の高い公共建築を実現してくれることと期待している。(あ)



太田良男先生訪問

現役時代と変わらぬ毎日

経済優先の現代、建築事務所の将来には危機感を持つ

太田良男さん。大正5年岐阜県生まれ。本誌2月号で紹介した玉田富雄さんとは幼馴染みだ。兵隊ごっこをして遊ぶときはいつも、年長の玉田さんが指揮官で、太田さんは一兵卒だったそうだ。

次男・太田啓二さんの主宰する、旭宏設計へ会いに行った。かつての一兵卒も、今では白いものが混ざり始めた堂々たる太い眉と、思いがけず温和な笑顔が印象的な老紳士となった。けっしてくずれず、かつ控え目な口調や態度が、人格の高さを物語っている。現役で活躍していたころの懐かしい思い出や、近況、建築事務所の将来などについてお話をうかがった。

太田さんは、幼いころから「なぜ貧乏人の子どもは、いくら頭が良くても上の学校に進めないのか。」「なぜ一方では物が余っているのに、他方では浮浪者がいるのか。」など、社会矛盾に疑問を抱き続けてきた。青春時代、「改造」を一冊懸命読んだり、ソビエト映画「5ヶ年計画」を大きな感動を持って見たことは忘れられない。

昭和12年、名古屋高等工業建築科を卒業後、すぐに入った竹中工務店では、労働組合名古屋支部長、全国副委員長として活躍。社長・

重役を向こうに回して一步も引かずに渡り合った。太田さんの人並みならぬ正義感の強さがうかがわれる。あの太い眉でにらみをきかせていたのだろうか。

そんなこともあって、昭和24年、豊橋出張所長を最後に退社、自分の事務所を持つことになる。当時は、戦後復興の波に乗って需要が多く、仕事に困ることはなかったという。最初の仕事は中高層耐火住宅。木造を鉄筋に変えていこうという時期で、鉄筋コンクリートの建築技術を修得している人は、そのころまだ少なかった。

潔癖で、不当な差別を許さない太田さんの姿勢は、独立後も変わらない。当時、内装などの下請け業者は、建築現場ではゼネコンなどの高圧的な態度に苦しめられることが多かった。しかし太田さんは、そういう人たちをも平等に扱った。それに感激したある内装業者が、「この人は紳士だ。」と、自分の出入りしていた西川屋（ユニーの前身）に太田さんを紹介したのが、ユニーの仕事を手掛けるようになったきっかけだという。

35年にわたる太田良男建築事務所の所長時代には、第13代日本建築家協会東海支部長もつとめた。今は、所長の座を長男・太田敦士

氏に譲り、会長の座に退いた。しかし、毎日の日課はたいして変わっていないという。毎朝9時起床、朝・昼兼用の食事をとったあと、昼過ぎに出勤。太田良男建築事務所と、旭宏設計には、必ず顔を出すそうだ。「両方の雑用をやっているんだよ。」というが、老いてもけっこう本を読んだりして、勉強を怠らない。

身体の方はいたって健康。ゴルフをやっても、若い人に負けずに回る。「歩くことは平気なんだが、下手になったね。スコアが全然伸びない。昔はほかに仲間が2人いたんだが、亡くなったり腰を痛めたりしてね。誘ってくれる人がいなくなった。最近足手まといになるものだから、ますます誘いの声がかからなくなったね。」と、やや寂しそう。昔から、「仕事あつてのゴルフ」という考え方で、月に1~2回しかやらなかった。あくまでも趣味は余暇に楽しむもの、という禁欲的な太田さんらしい態度だ。その点、趣味を生活の第1に考えて、アルバイトで生活をつなぐ現代の若者気質には、疑問の目を向ける。

太田さんは趣味に没頭することもなく、真面目というより面白いエピソードが一つもない朴念仁なのだ。現役時代は、朝出勤すると

毎日夜の9時や10時まで事務所にいた。読書をするのも事務所の中でだった。「食べていければいい、くらいの楽な気持ちでやっていた。」という割りには、仕事一筋の生活ぶりだったようだ。太田さんの高い倫理感、建築家のあるべき姿として、努力して身につけたというようなものではなく、人間太田良男に本来備わっていたものなのだろう。

建築事務所の将来について、どう思っているのかがしてみると、悲観的な答えが返ってきた。「大手ゼネコンは、研究所を設けて幅広い研究をしているし、金もある。だからいろいろなことに取り組めるね。建築事務所の場合、『お願いします。』と施主が頼みに来るような一部の有名な所はいいが、その他大勢は、家協会の憲章を守って営業活動をしていないと、設計施工で攻めてくる大手ゼネコンに仕事をとられてしまうだろうね。

最近、その上に広告会社が力をつけてきて、マスター・プランづくりまでやるようになった。ゼネコンも、設計事務所も、その連中の企画に沿って、一部を請け負ってやるという、いわば下請けになってしまう傾向が出てきた。この経済優先のシステムの中では、事務所が生き残っていくのは難しいと思う。」

最近の、東京の有名な大先生や、さらにエスカレートして外国人を引っ張ってきて、簡単なスケッチを描いてもらい、それを設計と称して100万円という大金を支払ったりする安易な風潮にも、批判的だ。

太田さんの、高いモラルに基づいた考え方や態度は、ときに生真面目すぎると思われるほどだが、わたしたちがけっして失ってはならない本質的なものを含んでいる。これからも後進育成に、力を注いでほしいと思う。

(あ)

太田良男（おおた・よしお）氏略歴

大正5年 岐阜県生まれ
昭和16年 名古屋高等工業建築科卒業
昭和16年 竹中工務店名古屋支店
昭和24年 建築設計事務所自営
昭和57年、58年 日本建築家協会東海支部長

「金属と人間の調和」 菊川工業講演会

JIA後援で、聴衆400名を集める

3月16日、電気文化会館において、JIAが後援する菊川工業の講演会「金属と人間の調和」がおこなわれた。第一回になる今回は講師に内井昭蔵氏（建築家・JIA副会長）と杉本正年氏（東洋史家）を招き、約400名の聴衆を集めた。

内井氏の講演のテーマは「金属と空間」というものであった。

内井氏によれば金属の持つ固く、冷たく、光る性格は日本人にはなじみず、また、それのもつ不変性や、幾何学的な構造などあからさまなものは、「永遠」と対立し、ゆがんだもののやずれたものを好む日本人の美意識とは相容れないものであり、人間の空間と金属との調和を考える建築家にとってはどうしてもソフト化が課題となるということであった。

そのためには、建築を数字や材料からデジタルにアッセンブリするだけではなく、より豊かなイメージを持って空間を考えなければならぬということであった。

なかでも、金属（銅板など）の変化要因を意匠に取り入れること、表面処理で人の金属に対する感覚を緩和すること、ジョイント部分を工夫すること、などの提案を交えながら語られた「金属に人の心を乗せる」という言葉は内井氏の創作姿勢を象徴するものであったと思われる。

なお、この講演会は、菊川工業の創立55周年を記念に企画されたもので、この後も日本を代表する建築家を登場させながら各地の都市を巡回することになっている。

新刊案内

住まいの台所 100章

正宗量子

B6版 226頁 1,545円（本体1500） 鹿島出版会

ミセス建築家が女性、主婦、母の立場から女性のために台所づくりの貴重なヒントを解説しやすく解説

ログハウス大全

ウッドライフ編集部／編

B5変型 376頁 3,090円（本体3000） 山と溪谷社

ログハウスの魅力を写真で紹介、またログハウスづくりを成功させるためのベーシック講座を解説

建築企画のシステムアプローチ

酒井宏之

A4版 118頁 3,605円（本体3500） 井上書院

今日の建築単体は街環境を無視しては考えられない。都市機能空間の一部として考えるシステム、考え方の参考図書

木造3階建て住宅の設計

小林達司

B5版 94頁 1,545円（本体1500） 理工学社

新簡易構造設計基準を活用した木造3階建て設計マニュアルとして、工務店ノウハウとして。

現代の民家

建築フォーラム編

A4版 173頁 7,004円（本体6800） 学芸出版

現在の建築技術と職人の伝統技が織りなした播磨屋。本店円山店の紹介、写真、図版で職人の温かい心を。

建築設備工事施工図の描き方

建設大臣官房官庁営繕部

A4版 297頁 7,210円（本体7000） 大成出版

良質な建物の建設のため、建築工事・電気設備工事・機械設備工事の施工図の実例集

(丸善調べ)

「AMMNAT計画は失敗？」

林 英光

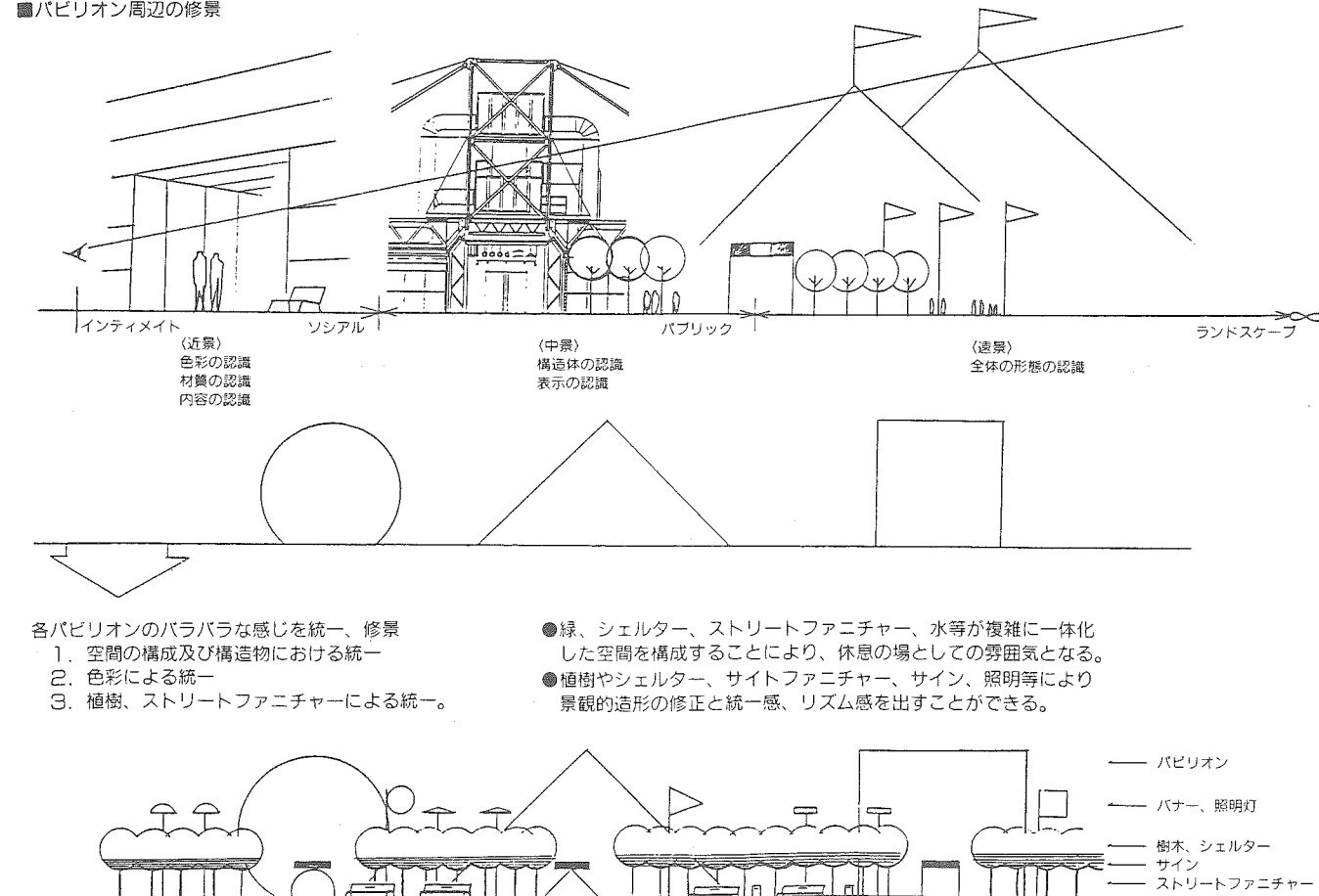
愛知県芸術大学助教授
環境デザイナー

デザイン博を控え、また納屋橋、堀川の計画の先鞭でもあるはずであった、AMMNAT計画が市民および建築家、デザイナーに与えた失望感は大きかったようだ。普通、建築などの構築物の建設途中の姿は、なにかしら魅力的であったり、機能美、構造美を感じさせるものであるが、朝日とヒルトンの計画には、それが最初からなかったように思う。それでも市民は期待をもってオープンを待ちかねていた。ところが、何の変哲もない寂しげな空間が出現し、オープンスペースやその周

辺、ファサードも魅力に乏しいものに終わった。名古屋はなぜ同じ失敗を繰り返すのだろうか。国際センタービルなどを代表とした、節約型のうら寂しいものしかつけないのだろうか。基本的な考え方がまちがっているとしか言いようがない。朝日新聞の記事で北原理雄氏が書いていたJRツインタワーも、1,300億円かけても凡庸で規模ばかり大きいだけで、文化たり得ないものが建つことは目に浮かんでくる。善良な市民をこれ以上落胆させてはならないと思

う。市民が本当に求めているもの、心に触れるもの、文化的なグレードを、まったく理解しないプロジェクトはもうたくさんである。時代感覚が半世紀ぐらいつれていっても言いすぎではない。東京、大阪の失敗だけを集めてどうなるのだろうか。地に足のついたもっと名古屋らしいものを見出しつくること、世界に通用し、国際性を持ったものをつくることになる。資金と技術とありふれたあと追いのコンセプトがあれば良いという考えを改めなければ、名古屋はいつまでも文

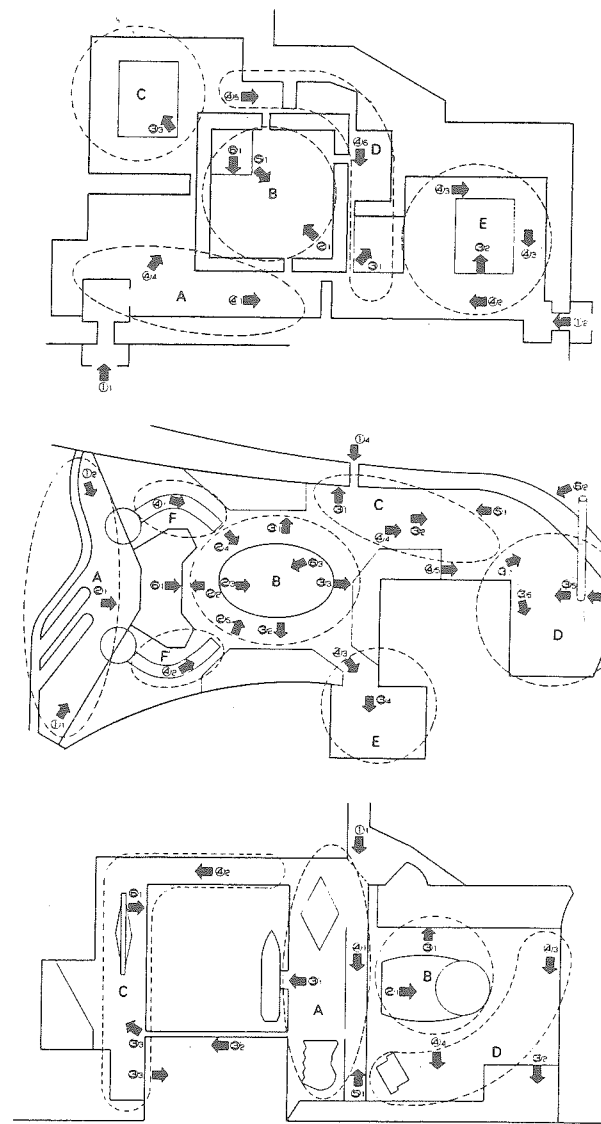
■バビリオン周辺の修景



各バビリオンのバラバラな感じを統一、修景
1. 空間の構成及び構築物における統一
2. 色彩による統一
3. 植樹、ストリートファニチャーによる統一。

●緑、シェルター、ストリートファニチャー、水等が複雑に一体化した空間を構成することにより、休憩の場としての雰囲気となる。
●植樹やシェルター、サイトファニチャー、サイン、照明等により景観的造形の修正と統一感、リズム感を出すことができる。

■ランドスケープにおけるゾーニングと演出エレメント



■名古屋城会場ゾーニング
Aゾーン(メインゲートから遊びのビレッジ)
Bゾーン(本丸、美しさのビレッジ)
Cゾーン(ワールドビレッジ、遊びの広場)
Dゾーン(レストランゾーンから伝えのビレッジ)
Eゾーン(創造のビレッジ、二の丸庭園)

■白鳥会場ゾーニング
Aゾーン(ゲート前広場とその周辺)
Bゾーン(中央広場とその周辺)
Cゾーン(ファンシーパザール、太夫堀)
Dゾーン(緑陰ステージ、遊びの広場)
Eゾーン(国際交流ゾーン、ワールドパザール)
Fゾーン(ドリームチューブ)

■名古屋港会場ゾーニング
Aゾーン(ゲート周辺からポートビル周辺)
Bゾーン(旅立ちの広場からプラネット周辺)
Cゾーン(花のプロムナードからポートギャラリー)
Dゾーン(遊びの広場、ハーバーステージ、夢のサテライト)

化の谷間からぬけ出られない。

先日、納屋橋の堀川の再開発を考えるフォーラムでの人々のいら立ちはこの辺にあったのではないと思う。感性の古い人たちに任されている大型プロジェクトは、次々と実現の方向にあり、その結果もだれの責任でもなく、まただれもそれを止められない。あきらめに似た風潮が、どんなに罪深いものか。役所も資本家も、設計者たちも目をさまして発言して欲しい。「また、あんなものが出来てしまった。」という言葉は、私たちはもう聞きたくないが、前記の人々にはまだ、届いていないようだ。

感性の時代というのは単にファッションや

小物のデザイン、インテリア、印刷物の話だけではない。もっと根本的な政治経済、技術すべてに言える大切なものである。身近なアジア諸国やオーストラリアで出来ていることが、なぜ日本で、名古屋で出来ないものか。そんなシンポジウムを開きたいと思う。何か単純な原因だろうとは思いますが、かなり根の深い問題であるように思われる。

名古屋市だけでもあちこちで数多くの委員会が開かれ、多くの人々がいろいろな意見を出していると思う。しかし、その中で大切なものは取りあげ、市としてのポリシーを築き上げる糧としていかないと、いつまでも何の変哲もない結果を永遠に続けることになる。

私たちが他国のプロジェクトを見たり、説明を受けると、いつも簡単にその精神なり考え方が理解できるのはなぜだろう。根本的な思想や目的が明確であるからにはかならないし、その筋に基づいてすべてが統括され、ブツ切りの麻のごとく乱れたわが国のプロジェクトとは大きく異なる。そのイメージの明快さは、子どもの頃からの教育にかかわるものかもしれない。

チャーチル首相が「人は建築をつくるが、環境は人をつくる」と言ったとか。なるほど、われわれの生きる国土を見れば、まだ何百年とかかることがうなずける。同じイギリス人劇作家、バーナード・ショーがむかし日本に

来たとき、日本の感想を尋ねられ次のように一言いったという。『国中あげて貧民窟』。われわれには、「貧乏」「間に合わせ」「無難」がしみついているのだろうか。皇室の行事である大喪の礼のTVを見ても、最長寿エンペラーの儀式としてはいかにも貧弱ではなかったか。私のアトリエのある浜名湖にも、浜名湖御用邸がある。遠くからではあるが、建物の型や汚れた湖水、すばらしい四季の風土にもかわらぬ荒れた周辺環境を見ると、美しい東南アジアのリゾートに移してさしあげたい感じがする。

堀川、納屋橋周辺の再開発に戻るが、活性化を願う当事者の意に反して、それとは裏腹の結果しか感じられない。納屋橋らしさ、地域のアイデンティティは、モニュメントや何か変わったものをつくることでは解決できない。世界にたった一つしかない、その場所をつくること、それは歴史や風土、そしてそこに住む人々のねばり強い意志でしか出来ない。理想的に言えば、地元の建築家、デザイナーの結集、そして外部の新鮮で客観的に時代を見越した感性をもった外国のプロデューサー、ディレクターが頭につくことである。

こんなことを言うのは、納屋橋再開発のまとめ役の人物は、常々、名古屋にはこのプロジェクトをできるだけ建築家、デザイナーはいないと公言していることへの提案である。東京や大阪ならできる人がいるというが、そんなにうまくできたと感心するほどのプロジェクトは見たことがない。

再開発とは短期日で都市の歴史をつくることである。納屋橋らしさ、名古屋らしさのかけらもない、どこにでもあるものをつくってはならないと思う。そうなりかねないのは、無差別に、地域性を考慮しないでいろいろな事例を参考としているように見え、ユニークなままだれも手がけていない手法やデザインが取り入れられていないように感じられるからである。

続 デザイン博覧会景観演出計画

・広場などの屋外空間は、それを取り囲む建物や植栽などにより個性が生じる。ストーリー

トファニチャー類や植栽その他で広場を構成する場合、その広場の持っているデザインの特性を生かすよう、造形的関連をもたせ、空間構成の仕上げの段階で、ていねいに位置修正をする必要がある。

・広場空間は、ランドスケープの大規模空間と、パブリックディスタンスの中規模空間と、ソシアルディスタンス的親密空間とに分けて構成し、ランドスケープ的なビューからの構成は、規則性や連続性が大切で、ダイナミックな広がりを感じられると良い。

・広場は通路や道路空間とは異なり、内包化された感情をもてるような空間構成とするとよい。

・一般的に人々は建物のそばや樹木のまわりに集まる習性があり、そこから活動的なエリアである大規模、中規模の広場の方向を見ることが自然な状態である。

・中規模空間から小規模空間への領域は、よっていねいで密度のある植樹やストリートファニチャー類の配置によって、休息の場として人々に落ち着きを与える「集社会的空間」としての構成をする。

・それぞれの会場は比較的把握しやすい構成となっているので、ゾーン区分は、音響、照明の回路切り換えなどと空間の特徴と機能を中心に設定する。また視覚の距離感とテリトリーに従って、空間演出の要素として重要な幾つかのビューポイントを設定し景観演出を進める。

・民間パビリオンやモニュメント、彫刻、広告類の造形や配置はとかく独自性を主張しがちだが、景観演出の方向に沿って協力を求め調整する。

パビリオン周辺の修景

■パビリオンに関するデザイン

隣接するパビリオンは互いの創造性を尊重し合いながら、調和のとれた環境づくりに努めてもらいたい。混乱した我が国の街づくりでは、調和させるべき対象となる環境や建物もない有様である。一つの法則に沿った環境づくりは、我が国ではあまり大切にされていない。この世界デザイン博覧会においては、造形

モチーフ、色彩計画の方向、環境演出エレメントの考え方に沿って、より完成度の高い仮設環境のデザインを表現したい。

■施設参加、企業名の標示

企業名またはロゴタイプは、施設参加の対象物の大きさや用途により、名板のサイズや取り付け位置を設定し会場全体の統一を図る。

■パビリオン名の標示

・メイン標示は、パビリオン名、または企業ロゴタイプとし、ランドスケープディスタンスからの認識できる最小限のものとする。またパビリオンの造形に調和し、不自然でない位置とする。

・パビリオンの入口の頭上、または入口横の壁面とする。

・外国館、パビリオン名は、国旗との組み合わせとする。

■領域演出エレメント

①アプローチビュー（交通手段から最初に出会う景色）②メインスペースビュー（ゲートを通りぬけた時の感動的な異空間）③サブスペースビュー（パビリオン周辺および、小広場・公園などの個人的な景色）④ウォーターフロントビュー（人々がはっとする親水空間としてのビュー）⑤パッセージビュー（会場内の通過空間の景色）⑥ルックバックビュー（会場をふりかえった時や退場時の景色）⑦バーズアイビュー（天守閣、ポートビル、モノレールや観覧車などから見おろした平面としての景色）⑧ルックアップビュー（見あげた状態での感動的なビュー）⑨スタンディングビュー（一般的な歩行時のビュー）⑩シットイングビュー（休息姿勢でのくつろいだビュー）



ヒューマニティがベースです。

Kamiyamaのコーポレートマークは、人間と技術と企業と製品とが一体になって、力を合わせていく“和進(調和精神)”の象徴です。また拓がる未来への可能性と人の成長プロセスとに大切な環境要素として、コーポレートカラーをブルーに選定。次世紀への大いなる情熱をこのマークに込めてKamiyamaは歴史の重さと未来への新鮮な視点を融合させた、真に快適な《まちづくり》に推進してまいります。

上山製陶株式会社

本社工場 岐阜県多治見市上山町1丁目8番地 TEL(0572)大代表22-8111 507
FAX(0572)22-8119
名古屋営業所 名古屋市中村区今池2丁目1-33 TEL(052)731-0023 2152 〒464
FAX(052)731-7145

ニチハ

防火外装材

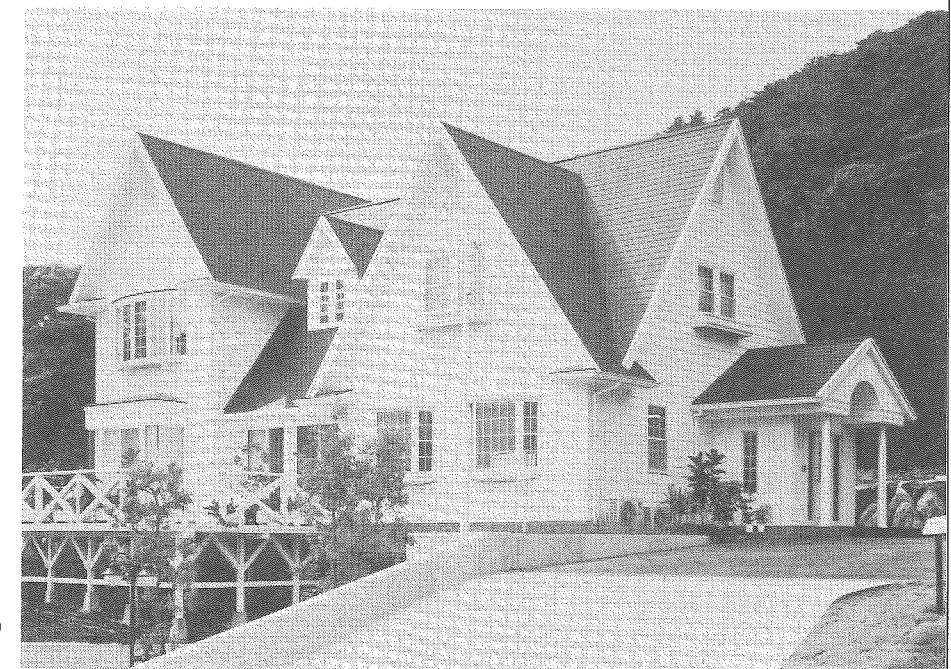
モエンサイディング

ファイアベスト
無石綿

外装材には、あらゆる天候や災害から建物を守る大切な役割があります。同時に、外装材は、外観の雰囲気や左右するもの。個性的な住まいづくりにそのデザイン性へのニーズは高まりつつあります。モエンサイディングは、外装材に求められる数々の特性を満たすとともに、豊富な色、柄、タイプをご用意。“安全で快適な生活環境づくり”その第一歩は優れた外装材選びから始まります。

- アスベストを含まない ■施工が容易
- 燃えない ■音を遮る

素晴らしい人間環境づくり
NICHHA ニチハ株式会社
(旧社名 日本ハードボード工業株式会社)
本社/名古屋市中村区名駅四丁目8番10号(白川第三ビル)
TEL(056)582-9411 FAX(052)582-0196 〒450



一 構造家の独り言

森田 富士男

構造設計に携わって十年ひと節説による3節目を越え、当初教えを受けた建築構造設計の基本理念、結果の査定（経済性を含めて）などが、社会情勢が大いに変化した現在も、いまだ生きてると感ずる今日このごろです。

コンピューターが発達したおかげで計算方法が変化し、計画方法、設計方法も変化しつつあります。建築用素材の発達は目をみはるものがあり、構造素材は鉄、コンクリート、木と変化はないものの、製造技術の発達、生産性の向上でいろいろの利用法ができるようになってきました。また一方、多方面の用途に応じた機械化が進み、施工法も変化し、以前考えられなかった工法ができるようになりました。そして法、規準などは改正が繰り返され、手かせ足かせの重みが大きくなってきています。

これらの変化の中でいつときまでは、生産性だけに焦点を合わせ、これぞ設計だと必死になった時代があったように思います。しかし、近年は素材の多様化、生産性の安定、施工法の普及などで設計が次の段階になっています。この社会的環境のなかで、年々、建築家の方々の構造に対する無頓着さを感じてきています。（大半の方には、こんなことをいうのは失礼とは思いますが）生産性先行のパターン型の建築設計であればやむをえないとしても、寂しく思うことがあります。これは、一方的に建築家の方々を責めるのではなく、われわれ構造家に責任がないとは言いませんが、このような方に限って「構造的」という言葉を連発されるのです。場合によっては、この「構造的」の意味の解釈に非常に

苦しみます。「建築的」と言っていたと聞いていいと思うことがよくあります。技術の高度化による設計分担制（意匠、構造、設備の設計分担）に原因があるか、コンピューターが発達して設計がやり易くなってきたためか、ほかにもいろいろ理由があるにせよ、パターンの設計するのは、設計とはいえないのではないのでしょうか。

SRC構造をご存じない方はいらっしゃらないはず。むしろ、金のかかる構造不経済構造だとか、構造家にまかせるしかない構造だとか、おっしゃる方が大半ではないでしょうか。言うまでもありませんが、このSRC構造は日本独自の構造であるといわれ、過去には耐震構造になくはならないものでした。しかし、現在は耐震設計法の発達で他の素材でも耐震設計が充分できるようになりました。近年諸外国からは、わが国独自のこのSRC造を、Mixed Structureとしてとらえ注目されるようになってきているそうです。

現在、建築学会でのSRC構造の慣用的な用法が整理されています。全体を合成構造（composite construction）とし、合成部材、混合構造に大別しています。合成部材というのは、広義な合成ばり、合成柱、合成壁、合成床、合成トラス、合成筋かい、その他です。広義な合成ばりの中にSRCばりがあります。さらに広義に言えばRC造もこのなかに含まれます。混合構造というのは、SRC構造はもちろんですが、合成ばり付きS造、プレキャストSRC造、そしてS造、RC造、SRC造の混合型構造その他です。以上は、学

問上、論文分類上の分類ですので、建築設計面からみるとじっくりきませんが、

複雑な分類になっていますが、簡単に言えば、建築（構造）とは、純木造、純RC造、RC壁構造以外はすべてこの合成構造（composite structure）と言って過言ではないと思われ。SRC構造とは、合成構造の一部だ、と言うことです。

合成構造は近年のハイテック・スタイルにももちろん、ポストモダニズム、ポスト・ポストモダニズムにも適合するとして不都合はないし、多くの建築に用いられてよいものだと思います。人第一の内部空間の機能、外部環境とのかかわり、そしてそれが集まって町となり都市となるという、建築の存在にかかわりあう以上、人間的に、社会的に、一方技術的にも精神的にも、理想的バランスのセンスによっての、合成構造を必要とするようです。やはり設計しようとする建築へのかかわりを通じて、建築全般のバランスの中で、物としての建築の部分の構造バランスは、構造家のみが考えるのではなく、かかわっている方が感じて物にしていかないと建築にはならないのではないのでしょうか。コンピューターは、設計をしません。生産性は設計とはなりません。法は設計ではありません。やはり、すべて人が設計するもので、人のセンスのみがたよりだと思えます。

「構造的」と言う言葉で認識しあうのではなく、「建築的」と言ういいかたで協力できればと思っています。

愛知県設備設計監理協会の事業内容

事業所の80%の組織率と会員の80%の出席率

愛知県設備設計監理協会では、本年よりARCHITECT編集部の依頼により、設備設計についての情報の提供、建築家への提言を行っています。

建築と設備は、建築工事においては、一体となっており、今後とも緊密なコミュニケーションをはかっていくことが非常に大切だと存じます。わたしどもにそうした貴重な紙数を提供いただき厚く御礼申し上げます。

さて、わたしどもの協会、愛知県設備設計監理協会は、昭和49年に設立され、今年で15年を迎えます。会員は設備の設計・監理を専業とする設備設計事務所を正会員とし、機器製造業者を賛助会員とした構成員でなっています。正会員44社、賛助会員約180社。会には会長1名、副会長1名、常務理事1名、他に理事5名、監事2名の役員をおき、会員は全員、各委員会に所属しています。

委員会は総務委員会、事業委員会、業務技術委員会、編集委員会があり、各委員会は担当理事1名、委員長、副委員長各1名と委員で構成されています。

事業方針

事業方針としては「建築設備設計監理業務の技術高度化と多様化への対応をめざし、協会の組織強化をはかり、建築設備技術者として社会的期待にこたえるためにも一層の技術研鑽に励み、かつ地域住民と密着して、その生活環境の向上を目途とする公益活動をさらに推進し、また諸官公庁、関連諸団体の連携を保ち、公共事業に貢献し、もって社会に寄与せんがため、次の事業を強力に推進する。」とあります。しかし、何分にも小世帯であるため思うにまかせぬ場合も多々あります。

事業計画 総務委員会

事業計画としては総務委員会で、
 (1)公益法人化を推進する。
 (2)定款、諸規定の整備を図る。
 (3)未加入者の勧誘を行い、組織強化に努める。
 (4)県内外の有効団体と連携を図る。

現在は通巻88号まで発行しており、官公庁の設備担当者、および中部電力、東邦ガスなどの技術者との情報交換、技術協力・交流をはかり誌面に反映させています。

会の運営は、まず各委員会での打ち合わせが行われ、月一回開催される理事会を通して意志決定をするという組織となっています。

これらの各委員会は会員の高い参加意識をもって運営され、出席率は80%近い数字を示しています。また、年始の名刺交換会には会員は100%の出席となり、会の結束の強固さを知っていただける機会ともなっています。

このような設備設計監理協会は、愛知県のみならず全国各県で組織され、現在、全国38県の参加を得て、日本設備設計事務所協会連合会が設立されています。

なお、設備設計監理協会の友好団体として日本設備設計家協会があります。この団体は個人参加であり、設備事務所、設備工事業、官公庁設備技術者、設備機器メーカーの技術者で構成されています。

わたしどもの設備設計監理協会は、専業の設備設計事業者団体として位置づけられ、全国組織としてもようやく活動も端緒につき、意欲的な取り組みをしています。

事務局 名古屋市中区千代田5-8-3
 ホッタビル 201号室
 TEL 241-7835 FAX 263-9564

事業委員会

(1)講演会、見学会等の開催。
 (2)無料設備相談所をひきつづき開設する。
 (3)新年名刺交換会、正会員研修会、会員親睦会の開催。
 など、極めて活発な事業活動を行っており、とくに公益事業として設備相談については力を入れ、会員が出向いて誠実に市民の相談に応ずることとしています。

業務技術委員会

(1)諸官公庁および関連諸団体と業務技術の交流を図る。
 (2)県下地方都市への協会活動報告と業務推進を図る。
 (3)業務および技術資料を収集し、研究と普及に努める。
 (4)監理チェックリストの作成、設計計算書の改訂を続ける。

この設備設計計算書は、様式の統一を図り、能率化につとめており、県下各市町村へ配付しています。また各計算書用紙は当協会にて一般販売をいたしています。

編集委員会

(1)協会誌「設計と監理」の隔月発刊に努める。
 (2)地域に密着せる諸施設の設備紹介を行う。
 (3)技術記事の充実を努める。
 (4)趣味的紙面を記述する。

現在は通巻88号まで発行しており、官公庁の設備担当者、および中部電力、東邦ガスなどの技術者との情報交換、技術協力・交流をはかり誌面に反映させています。

会の運営は、まず各委員会での打ち合わせが行われ、月一回開催される理事会を通して意志決定をするという組織となっています。

これらの各委員会は会員の高い参加意識をもって運営され、出席率は80%近い数字を示しています。また、年始の名刺交換会には会員は100%の出席となり、会の結束の強固さを知っていただける機会ともなっています。

このような設備設計監理協会は、愛知県のみならず全国各県で組織され、現在、全国38県の参加を得て、日本設備設計事務所協会連合会が設立されています。

なお、設備設計監理協会の友好団体として日本設備設計家協会があります。この団体は個人参加であり、設備事務所、設備工事業、官公庁設備技術者、設備機器メーカーの技術者で構成されています。

わたしどもの設備設計監理協会は、専業の設備設計事業者団体として位置づけられ、全国組織としてもようやく活動も端緒につき、意欲的な取り組みをしています。

事務局 名古屋市中区千代田5-8-3

ホッタビル 201号室

TEL 241-7835 FAX 263-9564

彫刻のあるまちづくり

—— 碧南市 ——

「観る」「触れる」ことによって、市民が親しめる野外彫刻を。水の豊かな小さな都市で着々と進む意欲的な試み。

ゆとりとるおいのあるまちづくりと、市民文化の向上をめざし「彫刻のあるまちづくり」を進めている碧南市は、人口6万5千人、衣浦港と矢作川にはさまれた水に恵まれた小都市だ。この計画は、市民憲章の精神に基づき、広場・街角・公園などの空間に、風土に親しみ、かつ格調ある彫刻を設置しようと、昭和58年度より第1期10年計画で始められた。現在までに国内外で活躍する著名作家の作品8体が設置されている。

設置に際しては、まず市民団体・市の代表などで組織する野外彫刻設置推進部会が場所を選定、次に美術評論家などからなる彫刻設置選考委員がその場所に合った作家を選ぶ。画期的なのは、依頼作家に現場を見てもらい、その環境に合った作品を新たに製作してもらうという、オーダーメイド方式をとっていることだ。素材の面でも、地場産業である瓦を使うなど、その土地ならではの彫刻づくりをめざす姿勢がうかがわれる。

一体にかかる費用は1,500万円前後。小都市とはいえ、臨海工業地帯で財政が豊かなので文化予算もとれたとのこと。単に設置するだけでなく、彫刻を題材とした市民参加の絵や写真のコンテスト、セミナーの開催、PR冊子の発行など、広報活動にも力を入れている。この夏には、日本で美術を学ぶ外国人留学生らを招いて、42日間泊まり込みで作品をつくってもらおうという、国際交流を兼ねたシンポジウムも企画されている。

さらに、月2~30万円の費用をかけて、作品のメンテナンスもおこなっている。高齢者の労働力を活用し、ステンレスなどは毎週磨いているそうだ。小都市ならではの行き届いた配慮といえよう。

市民の間からは、「無駄使い」「彫刻よりも測溝の整備を」「抽象作品はとっつきにくい」「もっと地元作家の作品を」などいろいろと批判の声も上がっている。しかし市側としては、第1期10年間は安易な妥協をせず、ゆく



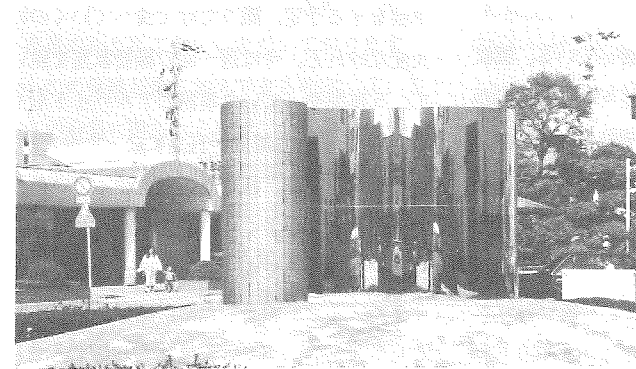
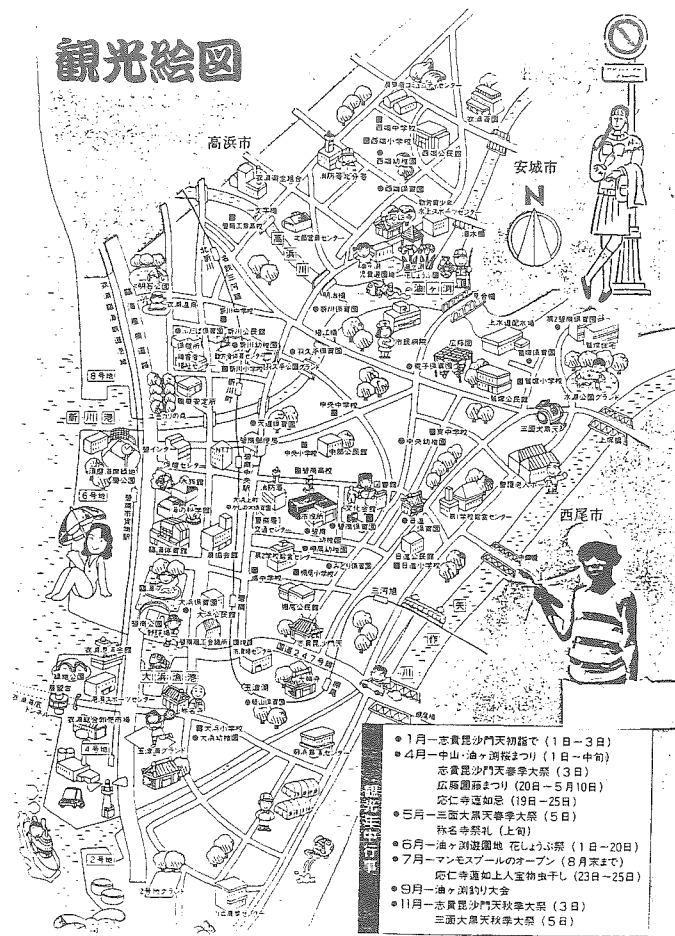
新妻 実「眼の城'86」

ゆくは市の宝となるような質の高い作品を置くという基本方針を貫く構えだ。もっとも最近では、アンケートの結果、自由に上に乗って遊べる抽象作品「スパイラル」が子どもを中心に一番の人気を集めるなど、市民の間にも親近感が増してきたようだ。

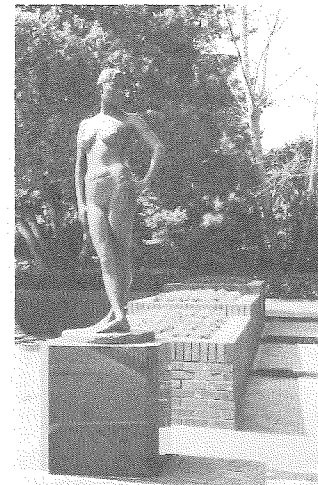
第1期終了後も、引き続き長期計画の構想があり、将来は水に恵まれた環境を生かして、まち全体を公園化したいとの考えだ。



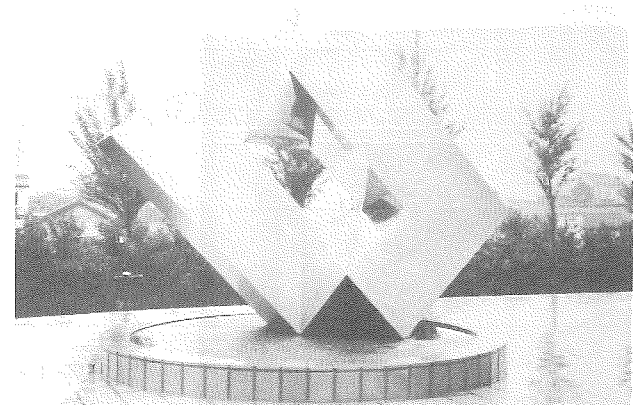
柳原義達「道標・鳩」



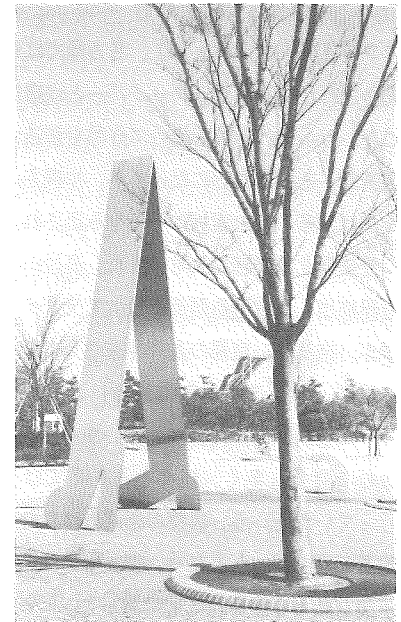
小田 襄「風景の調和」



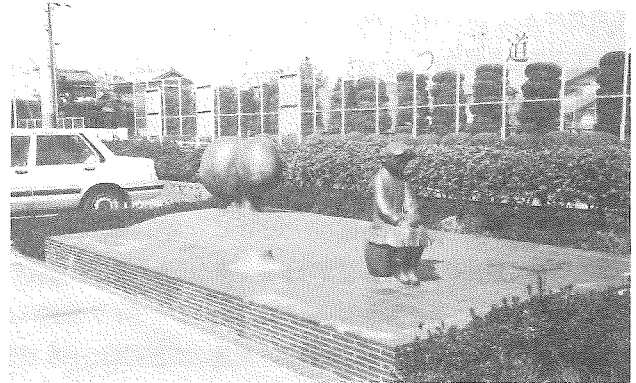
佐藤忠良「ジーンズ・夏」



堀内正和「進む形」



福田繁雄「健康都市碧南」



山本正道「樹と少女」

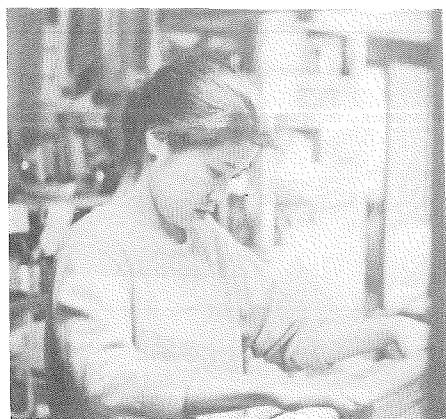
既設置彫刻一覧表

No.	作品名	作者	設置場所	素材	年月日は昭和
1	進む形	堀内 正和	臨海体育館	ステンレス	58.10.1
2	ジーンズ・夏	佐藤 忠良	文化会館	ブロンズ	59.11.5
3	風景の調和	小田 襄	碧南中央駅	ステンレス・瓦葺	60.11.27
4	眼の城'86	新妻 実	市役所	御影石	61.11.22
5	樹と少女	山本 正道	新川公民館	ブロンズ	62.11.14
6	道標・鳩	柳原 義達	保健センター	ブロンズ	62.12.6
7	スパイラル	環境造形Q	市民病院	黒御影石	63.4.8
8	健康都市碧南	福田 繁雄	臨海野球場	ステンレス	63.5.1



環境造形Q「スパイラル」

問合せ先
碧南市役所生活課
TEL 0566-411311
内線三三三



織る・束ねる・結ぶ

糸と水引が織りなす独創の世界

ファイバー・アーティスト
(織り造形作家)

片桐映子

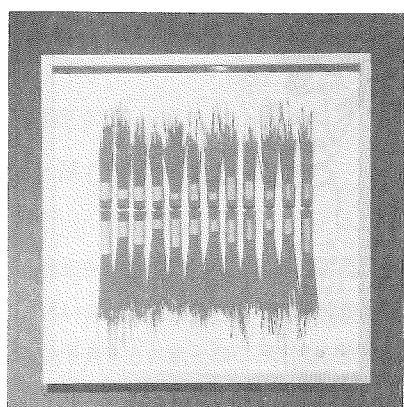
ファイバーアーティスト。名古屋ではまだ聞きなれない言葉だ。ファイバーとは繊維のこと。だから、繊維を使って作品を創造する芸術家、ということになるのか。片桐さんの作品は、糸や紙を素材にして生み出される。

愛知県北設楽郡稲武町生まれ。高校から名古屋に出、名古屋造形芸術短大でデザインを学ぶ。卒業後、京都の友禅作家の元で染めを学ぶが、そのころから「染め」よりは「織り」に惹かれていた。京都という土地柄、織りの展覧会も多く、機会をとらえては見に行っていたという。故郷の稲武町は、むかし養蚕が盛んだったところ。彼女もおばあさんが機を織るのを身近に見て育った。「そんな環境だったから、織りにはまったく違和感なく自然に入っていったのね。」過去を振り返ってみてそう思う。

彼女の心をとらえたのは、昔ながらの日本の織りではなく、フィンランドやスウェーデンなど北欧の織りだった。日本の織りとの違いは、熟練した人でなくても編み物のように組織図を見て織れることだ。彼女はフィンランドのサマースクールに参加し、あとは本を読んだりして独学で修得した。組織図を解読したり、自分でアレンジしたりすることが大好き。

「織りって、とても数学的な仕事だと思うんですよ。計算してパターンを出すところなんて。それから、細かい手作業の部分も大きいですね。」

織機に向かって、ショールや敷物などの日常使える物をつくっていると、無性に「何か無意味なもの」がつくりたくなる。彼女は、実は初めから、日常使える作品と「オブ



1989 「無題」水引・ロー引き麻糸44x44cm

ジェ」的作品の2本立てで創作活動をおこなっているのだ。

オブジェでは、今水引に凝っている。彼女の素材へのこだわりには、並々ならぬものがある。それは、彼女の創作活動すべてに共通するものだ。頭の中では常に素材のことを考えている。ピンとくる素材に出会うと、借金をしてでもその場でまとめ買いする。水引も、特産地である長野県飯田市まで買い付けに行った。10万円分もまとめて水引を買う片桐さんに、店の人は目を丸くしていたそうだ。

「インスタレーション」という言葉を最近よく耳にするようになった。ある空間に、その空間に合わせてつくった作品を設置していくことで、その場所全体が新しく創造された一つの作品となる。彼女のオブジェはこの方法でつくられる。

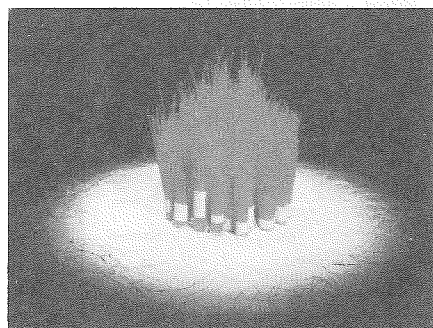
大きな空間を使って、自分の大作を発表できたら、という創作活動をしている人なら誰でも持つ夢を、彼女も持っている。「最近、製図を引く仕事をしている会社が事務所を新築した折に、3階分の階段の吹き抜けに、布にいろいろな色の糸を結びつけた私の作品を

飾ったんです。予算と時間の問題があって、実現させることは本当に難しいけれど、建築家の方と設計の段階から話しあって、建物の竣工と同時に私の作品も仕上がる、というような創作をいつかぜひやってみたいですね。」

インテリア・コーディネーターの仕事にも大変興味を持っている。ごくたまにしか、そうした仕事の依頼はないが、布や糸に関する知識を生かして、そうした方面の仕事もどんどんやっていきたいそうだ。その意味でも、建築家との共同作業には惹かれるものがある。

7月中旬には織機を使った夏物の作品の展示会をする予定。織りだけで食べていくのは大変だけれど、今は週一回の織物教室を除いて、5年間やっていた事務のアルバイトもやめ、織り一筋。「時間が自由になった分だけ、自己管理が大変。好きな織りをやっていたらいいわね、とよくうらやましがられるけれど、どんなことでも、いい面ばかりはないですよ。私も、お金のために随分アルバイトもしてきたし、今でも苦労はあります。でも、自分のやりたいことが早く見つかったのは、幸せだったと思います。」

一つのことを打ち込む人の、さわやかな笑顔が印象的だった。(あ)



1989 「無題」水引・ロー引き麻糸

J I A 保険 (グループ保険) ご加入のおすすめ

J. I. Aのグループ保険は、昭和62年に制度の再発足をいたしました。本年度の加入勧奨(本年6月~7月の予定)で第3年目となります。

本年度は、より多くの設計事務所のかたの加入を積極的に進めることにいたしましたので、ここに、Q & Aとして、この保険のメリット、内容などについて解説することになりました。ご加入の一助になれば幸いです。

Q1 J. I. Aのグループ保険は、会員および会員が主宰する設計事務所の所員にとって、どのような利点をもっているか。

A; J. I. Aは、会員および会員が主宰する設計事務所の所員のかたがたの福利厚生制度の一環として、旧日本建築家協会当時より、このグループ保険制度を実施し、多くの会員のかたにご加入いただいております。

この保険制度に加入できるのは、J. I. Aの会員に限られるので、会員のかたが主宰する設計事務所の所員の福利厚生制度として、きわめて安い掛金で利用できます。また、加入の手続きも簡単になっております。

個々の設計事務所が、単独で同様な保険に入った場合に比べると、J. I. A保険は、コストが大幅に安くなっているため、会員にとって大いに利益のある制度といえましょう。

Q2 J. I. A保険の具体的な保険内容を教えてください。

A; J. I. A保険に加入できるのは、会員が主宰する設計事務所の事業主、役員およびその従業員で、年齢が14才6ヶ月以上70才6ヶ月未満のかたになりますが、事業所で加入資格を有するかたを全員この保険に加入させることが基本となっています。

また、一人一人の保険金額は、次の金額の中から選ぶことになります。

- 2,500万円, 2,000万円, 1,500万円, 1,000万円, 500万円, 300万円の6種類の中の一つ
- 一例をあげると、次のような選び方ができます。
- 社長 2,500万円
- 役員 2,000万円
- 男子 1,000万円
- 女子 500万円

Q3 J. I. A保険は、他の類似の保険と比べてどんな特長をもっているのか。

A; J. I. A保険の特長をいくつかあげてみましょう。

1. おてごろな保険料と実績に応じた配当金
この保険の最大の特長は、おてごろな保険料金で保障が得られることです。

そのうえ、この保険は、団体別に1年ごとに収支計算を行ない、剰余金があれば、配当金としてお支払いします。

2. 1年ごとに更新する保険契約
1年ごとに契約を更新しますから、経済的変動など情勢の変化には、保険金額を増減することによって自由に対応できます。

3. 全員告知扱いで手続きは簡単
ご加入のときに、正常に勤務または就業していることを条件に、一人一人の診査は行ないませんので、加入手続きは簡単です。

4. 保険料に対する税法上の特典
法人(設計事務所)が負担された保険料は、全額損金算入できます。また、加入者(被保険者)個人が負担された保険料は、生命保険料控除の対象となります。

Q4 現在、J. I. A保険には、約3,000人のかたが加入されているが、今後、加入者が大幅に増えてくると、一人一人の加入者にとってはどんなメリットがあるのか。

A; ご加入者が増えるにつれて、加入者一人一人にとって、次のようなメリットが生ず

ることになります。

まず、保険料が安くなるのが考えられます。

加入者が増加することによって、いわゆる規模の利益が生じ、保険会社のコストが低くなりますので、その分、一人一人の掛金が安くなります。

2番目のそして最大のメリットとしてあげられるのは、配当金の大幅な増加です。

具体的にどのような差が生ずるのか、例をあげてみましょう。

- 前提条件
- 1. 一人当たり保険金額 1,000万円
 - 1. 1,000万円当たりの月払保険料 4,700円
 - 1. 年間支払事故0の場合
- この前提条件をもとに、加入人員別の配当金額を計算したのが次の表です。

加入人員	年間保険料	配当金額	差引保険料
3,000人	56,400円 (4,700円×12)	43,343円	13,057円
5,000人	56,400円	49,586円	6,814円
10,000人	56,400円	50,979円	5,421円

現在のご加入者は約3,000人ですが、仮にご加入者が1万人に増えた場合には、配当金が大幅に増加し、支払った保険料から配当金を差し引いた実質の負担金は、ご加入者が3,000人の場合に比べて、約半額となります。このようにご加入者が増えれば増えるほど、一人一人にとってのメリットは非常に大きくなりますので、是非多くの方のご加入をお願いいたします。

J. I. A保険が会員相互の助け合いの保険だといわれるのももっともなことです。

Q5 J. I. A保険の保険料(掛金)は他の保険に比べて安いというが、どの程度安いのか。

A; J. I. Aの保険料は、その年ごとの

ご加入者の年齢構成によって毎年変わりますが、現在の保険料は、保険金額 1,000万円について月払いで 4,700円になっています。(この保険料は、ご加入者の年齢に関係なく、同じ額となります。)

個人が契約する保険で、J. I. A 保険に類似した保険として、定期保険 (5 年満期) があります。この保険の保険料は、年齢によって異なりますが、代表的な年齢についてその保険料をみると次のとおりです。(保険金額 1,000万円、月払保険料)

加入年齢 (才)	保険料 (円)
30	3,500
35	3,900
40	4,700
45	6,200
50	8,100
55	11,000
60	15,800
65	24,000

年齢40才以下の若年層の人にとっては、J. I. A 保険より、個人で入る定期保険の方が、保険料は低いです。中堅層以上の方々にとっては、J. I. A 保険の保険料の方が有利になっています。

このように表面的な保険料だけを単純に比較することは、必ずしも正確な負担の比較にはなりません。これにさらに配当金額の違いを考慮に入れますと、J. I. A 保険の優位性は一層きわだったものとなります。

Q6 J. I. A 保険の配当金は、どのようにして計算されるのか。

A; J. I. A 保険については、加入者が

	採用しない場合	採用した場合	差額
法人税	$(800万円 \times 0.29) + (200万円 \times 0.40) = 3,120,000円$	$(800万円 \times 0.29) + (200万円 - 564,000円) \times 0.40 = 2,894,400円$	225,600円
事業税	$(350万円 \times 0.06) + (350万円 \times 0.09) + (300万円 \times 0.12) = 885,000円$	$(350万円 \times 0.06) + (350万円 \times 0.09) + (300万円 - 564,000円) \times 0.12 = 817,000円$	68,000円
住民税	$3,120,000円 \times 0.173 = 539,760円$	$2,894,400円 \times 0.173 = 500,731円$	39,029円
合計	4,544,760円	4,212,131円	332,629円

お払い込みになった保険料の中から、保険会社の事務費に相当する部分 (掛金に対してはごく少額のもので) および保険期間中に保険事故をおこした方に対してお支払した保険金などを差し引いた剰余金に対して、加入者数に応じた一定の率を乗じたものを、配当金としてご加入者にお返ししております。

この配当金額は、加入者の人数が多くなればなるほど増える仕組みになっています。

Q7 法人 (設計事務所) が負担した保険料は、法人税法上全額損金算入できるというが、具体的にどの程度税金が安くなるのか。

A; J. I. A 保険に入った場合と入らなかった場合とで、税金面でどんな差がでるのか、具体的に二つのケースをとりあげて計算してみました。

第1のケース

採用例 (資本金1億円以下の設計事務所で全員加入の場合)

所得金額	従業員	1人当り平均保険金
1,000万円	10名	1,000万円
総保険金	月払保険料	年間保険料
10,000万円	47,000円	564,000円

J. I. A 保険を採用されることによって、332,629円 (年間保険料の58.9%) も税金が安くなりますから、上記の例の場合、実際負担される保険料は、231,371円 (564,000円 - 332,629円) となります。

第2のケース

採用例 (資本金1億円以下の設計事務所) で全員加入の場合)

所得金額	従業員	1人当り平均保険金
700万円	10名	1,000万円
総保険金	月払保険料	年間保険料
10,000万円	47,000円	564,000円

	採用しない場合	採用した場合	差額
法人税	$(700万円 \times 0.29) = 2,030,000円$	$(700万円 - 564,000円) \times 0.29 = 1,866,440円$	163,560円
事業税	$(350万円 \times 0.06) + (350万円 \times 0.09) = 525,000円$	$(350万円 \times 0.06) + (350万円 - 564,000円) \times 0.09 = 474,000円$	51,000円
住民税	$2,030,000円 \times 0.173 = 351,190円$	$1,866,440円 \times 0.173 = 322,894円$	28,296円
合計	2,906,190円	2,663,334円	242,856円

J. I. A 保険を採用されることによって、242,856円 (年間保険料の43%) も税金が安くなりますから、上記の例の場合、実際負担される保険料は、321,144円 (564,000円 - 242,856円) となります。

Q8 本年度の J. I. A 保険への加入時期、手続などにつき説明してほしい。

A; 本年度の J. I. A 保険のご案内については、5月初旬~中旬に、この保険の業務委託会社である株式会社建築家会館から、パンフレット、加入申込書などの一連の書類が、会員の皆様のもとに送られてきます。

加入の受付期間は、6月1日及至7月31日になる予定ですが、この間に、この保険の受託生命保険会社である三井生命保険相互会社の担当者が、皆様のもとにおかがいし、保険の内容、加入手続などにつき、詳しくご説明することになっておりますので、よろしくお願いたします。

引受会社 三井生命保険相互会社

製品紹介

パネル感覚で楽しむ吸音インテリア材

SONEX

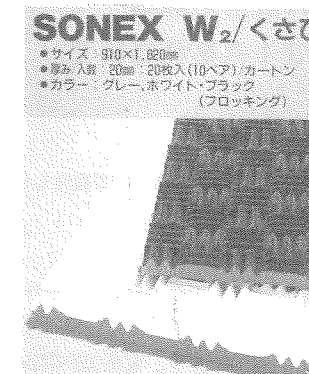
井上エムテーピー(株)

ソネックスとは、連続気泡ウレタンフォームを表面加工した吸音材で広い周波数帯域で音を効率よく吸収します。また軽量かつ施工

が容易ですから、専門家の施工を必要とせず、気軽にパネル感覚で扱うことができます。

(特長)

1. 高い吸音性能
2. 自己消化性のため安心してご使用できます。(MVS S302 合格)
3. 軽量かつ裁断性がよく、接着剤のみで貼りつけられる高施工性
4. インテリアとしてもOK



(用途)

- ・楽器練習室・ピアノ室
- ・オーディオルーム
- ・録音スタジオ
- ・工場騒音対策
- ・OA・コンピューター関連騒音対策

照会先: 井上エムテーピー(株) 建材事業部
TEL 052-682-6185
担当 酒井賢太郎・辻中清隆

意匠性にすぐれた不燃外装材を新発売

三井木材工業(株)

従来のサイディング (外装材) には、アスベストがその主原料として5~25%の範囲で使用されてきました。しかし、ノンアスベストの時代、すなわち、健康サイディングが社会の通例としてその必然性を問われています。これらノンアスベスト外装材を製造販売しているメーカーは、きわめて少数です。学校児童に与える影響からも、その使用をゼロにすることがわれわれ業界サイディング業界に課せられた社会的責務であると思えます。

チュリーボードAIIを、深絞りサイディングとして今春4月1日より発売スタートいたしました。従来の方針どおりアスベスト不使用の指向は変えません。

新製品三井センチュリーボードAIIのご紹介をいたします。

わが社は、25年間のサイディングメーカーとしての実績とノウハウの蓄積をベースに新製品を生みだしました。

センチュリーボードAIIの主たる特徴として①不燃材 ②防火構造認定 ③ノンアスベスト ④寸法安定性が高い ⑤立体感溢れる深絞り ⑥モルタルの11倍と断熱性能が高いなど、ハイクラスの外装材として今後のご愛顧をよろしくお願いたします。

当社三井センチュリーボードは、千葉県習志野市で昭和39年から生産開始以来、アスベストの混入はいっさいありません。さらには、愛知県半田市で、未来を先取りした三井セン

照会先: 三井木材工業(株) 中部営業部
名古屋営業所
〒460 名古屋市中区大須1-35-18
一光大須ビル8F
TEL 052-221-1991

(社)新日本建築家協会東海・北陸支部愛知部会機関誌ARCHITECTを

貴社の情報の場としてご利用下さい。

- ・貴社のイメージ広告として
- ・新製品の発表の場として
- ・営業所の移転、新設のご案内として
- ・設計営業担当者のあいさつの場として
- ・建築家とメーカーとの対話の場として

他に月極定期広告、単発PR広告も募集
しています。ご希望の方はJIA事務局まで

※広告の詳細についてはお邪魔してご説明します。

ARCHITECT編集部

編集後記

●ARCHITECTにはいろいろな役割が与えられています。まず第一は「建築家の職能」を一般社会に対してPRする役割です。「建築家」と「建築士」、「建築事務所」と「建設業」との違いについて、社会には充分知られていません。「建設業」から仕事ももらって「設計」するのが「建築事務所」という理解をしている人が意外に多かったりします。「建築家」と「建築士」の違いにいたっては、建築設計に携わる人でも、明解に説明できません。

瀬口哲夫氏に連載で「職業としての建築」をお願いしていますが、建築家にとっては得難い原稿だと思います。それと同時に、実際の業務のなかでの「建築家の職能」を紹介する原稿を、みなさんから寄せて頂きたいと思えます。「建築主」の利益は「建築家」によって守られている、ということは、みなさんの日常の業務のなかで当然のこととなっています。そのなかでも、とくに記憶に残るエピソードがあれば、ぜひ、書きとめてお知らせいただきたいと思えます。新聞にも電話投書

欄というのができています。電話052-971-7477の岩田宛にお電話下されば、編集者の責任で活字にさせていただきます。

●ARCHITECTに課せられた役割のなかで、機関誌として内部に対する啓蒙が非常に大切だと思います。建築家としての使命と誇りを訴えていきたいと思えます。新しい団体として多くの建築家の参加をみましたが、団体としての結束はこれからの課題でもあります。ARCHITECTは、本部の機関誌と並んで、会員のみなさんの会員としての自覚を促す最高の紐帯の役割をはたしていきたいと考えています。「建築家の職能」の社会的政治的確立をはかっていくには、建築家自身の団結と努力が必要であることはいうまでもありません。そのためには建築家自身の意識の向上と自覚が求められています。建築家はともすれば一匹狼的なところがあり、衆に頼んだり群をなすことを好まない特性がありますが、「建築家の職能の政治的社会的確立」なしには建築家自身がメスを喰うことさえままなりません。のんびりしていたら、ゼネコンやデベロッパー、広告会社におしのけられてしまっただけで社会の下積み職種になりかねま

せん。そんな不安がいっぱいの社会状況です。ARCHITECTは建築家のより一層の団結を促す有効な媒体であり、牽引車であり、建築家の理想を掲げて、建築家のロマンで誌面を飾り、同時に建築家の生臭い日々の業務にも役立つ情報を掲載する雑誌にしたいと思えます。

●雑誌づくりは建築家の業務といっしょで、常に夢があり、やりたいことでいっぱいですが、それをどう実現していくか、これは難しいことです。会員のみなさんの参加を再度お願いする次第です。

ARCHITECT

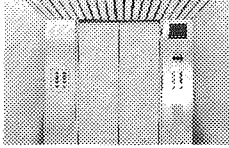
第8号
発行日 1989・5・1 (毎月1回発行)
定価 380円
発行所 社団法人 新日本建築家協会
東海・北陸支部愛知部会
発行責任者 栢本良三
編集責任者 森 鉦一
編集 愛知部会ブリテン委員会
建築ジャーナル
名古屋市中区栄四丁目3番26号
昭和ビル5階
TEL (052)263-4636 FAX 251-8495

MITSUBISHI

知的生産、専用拠点。

技術がつく高度な未来、SOCIO-TECH

インテリジェントビルを構成するシステム



エレベーターシステム



セキュリティシステム



ビルマネジメントシステム



通信会議システム

高度情報化社会における知的生産の専用拠点

それがインテリジェントビルです。

三菱のインテリジェントビルシステムMibassは、デジタル電子交換機、ビル管理システム、セキュリティシステムからなり、個々に高度な機能を発揮しますが、システムの統合化により、さらに高度な付加機能を実現します。基本的に、無人管理を指向したシステムになっており、運営管理を極力合理化できるように考慮しています。

三菱インテリジェントビルシステム

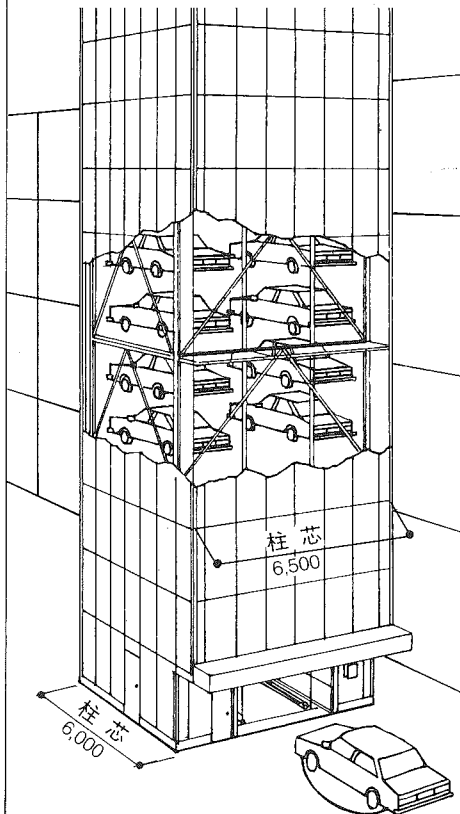
ビルが知能をもちはじめた



(Mitsubishi Intelligent Building Automation Systems & Services)

●お問い合わせ：三菱電機株式会社 中部支社 ビルシステム部 ☎(052)565-3163

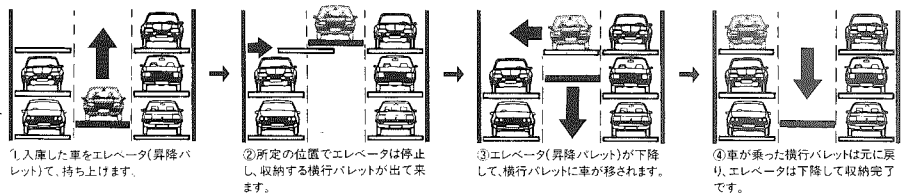
21世紀の駐車システム—パズルタワー—



パズルタワーはタチカワの最新駐車システム
画期的なエレベーター方式と比類のないフォークによる
連面受渡し機構の採用により時間の壁を破りました。

- ハイスピード…高速運転により、最大出庫待ち時間59秒
入庫時:60~90m/min 出庫時:94m/min
入庫と出庫の連続運転が可能です
 - 低ランニングコスト…契約電力15Kw、電気料金4~5万円/月
 - 静粛運転…騒音は従来比15db減少、振動は従来比1/10以下となり、深夜運転、ビル組込みが可能です
- ※上記はターン装置内蔵型、32台収容の数値です

《パズルタワー自慢の仕組み》



●資料及びお問合せ

立川ブラインド工業株式会社

名古屋支店

特販課担当 川北 欣弥

〒451 名古屋市西区児玉3丁目四番四号

TEL 052(532)0181